

千葉市内野第1遺跡出土の亀形土製品と石冠覚書

－関東地方における集成から－

田中 英世

はじめに

内野第1遺跡については、これまで多くの資料を提示し、検討を行ってきた(註1)。今回、検討を加える資料は、A-634とD-52から出土した石冠2点と、亀形土製品1点である。A-634出土の石器については、鯨の椎骨と共に出土したこともあり、発見当初より魚形石製品として捉え、亀形土製品と共に類似資料を探索してきたが、石川県真脇遺跡に類例があることを知った(註2)。また、D-52出土の石冠については、阿部芳郎氏により石冠の可能性の指摘を受け、近年、大竹憲治氏が海獣形石製品として集成を行っている石冠Ⅴ類(註3)に類似することを知った。今回は、関東地方の亀形土製品と石冠の集成を行い、これらに検討を加える。

1. 内野第1遺跡出土の石冠と亀形土製品

今回取り上げる資料は、いずれも報告書未掲載資料であるが、「千葉市内野第1遺跡出土の縄文時代資料補遺(1)」(『埋蔵文化財調査センター年報』16)と、「千葉市内野第1遺跡出土の石棒・石剣」(『貝塚博物館紀要』第32号)に、出土状態等は報告してある。A-634は調査時に住居跡、D-52は土壇と認定した遺構である。

(1) A-634出土の石冠と亀形土製品(第2・3図)

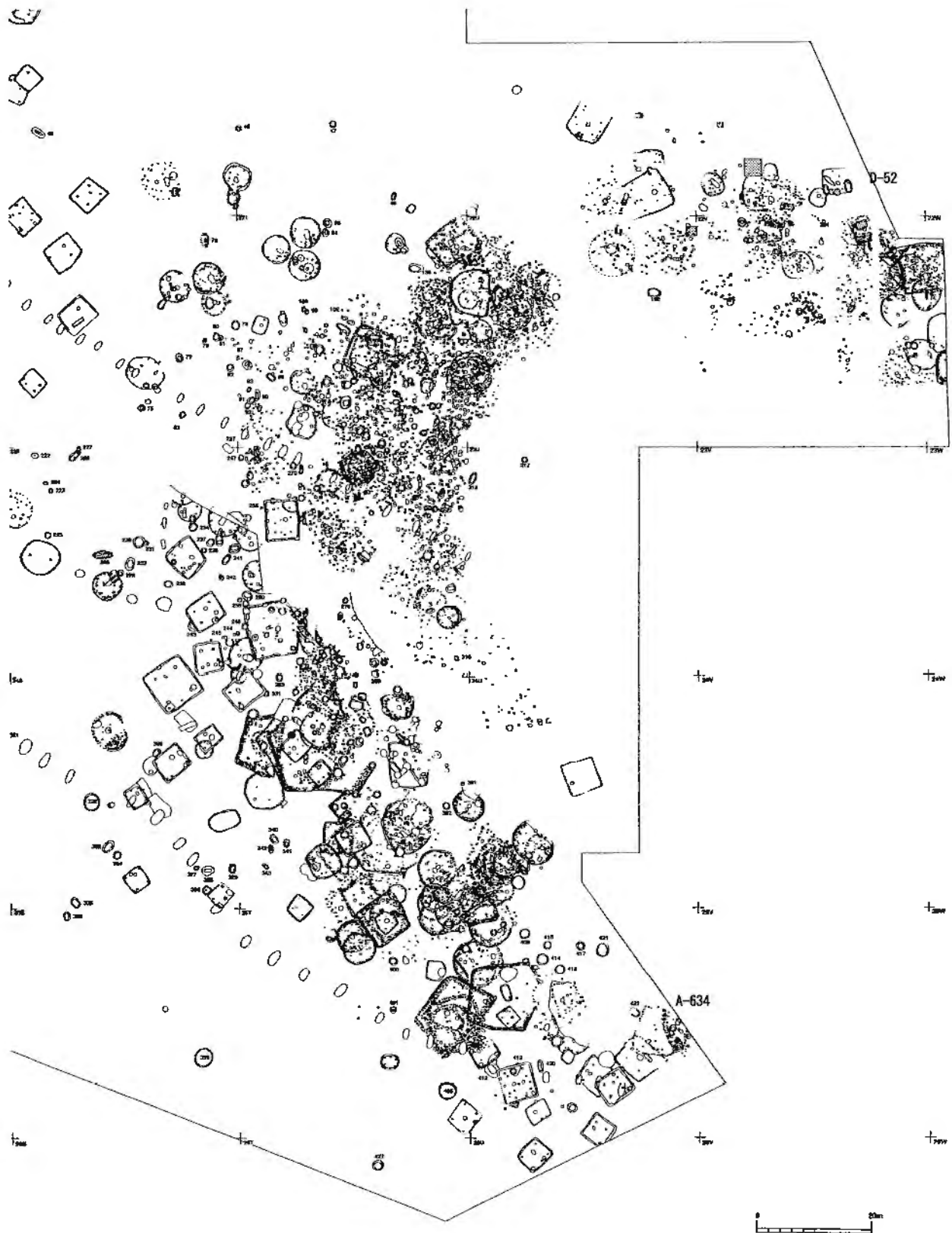
遺跡の南側に位置し、調査時には、J-125・A-634・A-635の3軒の住居の重複と捉えていた(A-634・635は、調査時では住居と認定したが、報告書では除外された遺構。J-125は、報告書でも住居と認定した遺構)。A-634は、黒色土中に床面を持ち、西側壁柱穴に沿って焼土が検出され、これが炉に関係する焼土として捉えられる。北側から鯨の椎骨が、南壁際から石冠(第3図1)と亀形土製品(第3図2)が近接して出土した。土器は、安行2～3a式土器(第2図6～9・11)と、加曽利B式(第2図10)が混在して出土した他、晩期の土偶(第2図4)が出土した。西側の一辺を共有した安行2～3a式期の方形住居と、加曽利B式期のD字形住居が重複している可能性がある(註4)。南側のJ-125は、安行1式期の住居で、矢羽根状沈線を施し、被熱して赤化した石棒(第2図3)が出土した。

石冠(第3図1)は、断面Ⅱ状を呈し、両端に線刻による細い鋸歯状の文様を施す。全面、酸化鉄により赤色を帯びるが、擦痕等は特に認められない。発見当初より、形状と線刻により魚形石製品として捉えていた石製品である。赤化していたために、鋸歯状の刻線に気付いたが、従来は敲石として捉えられていた資料である。

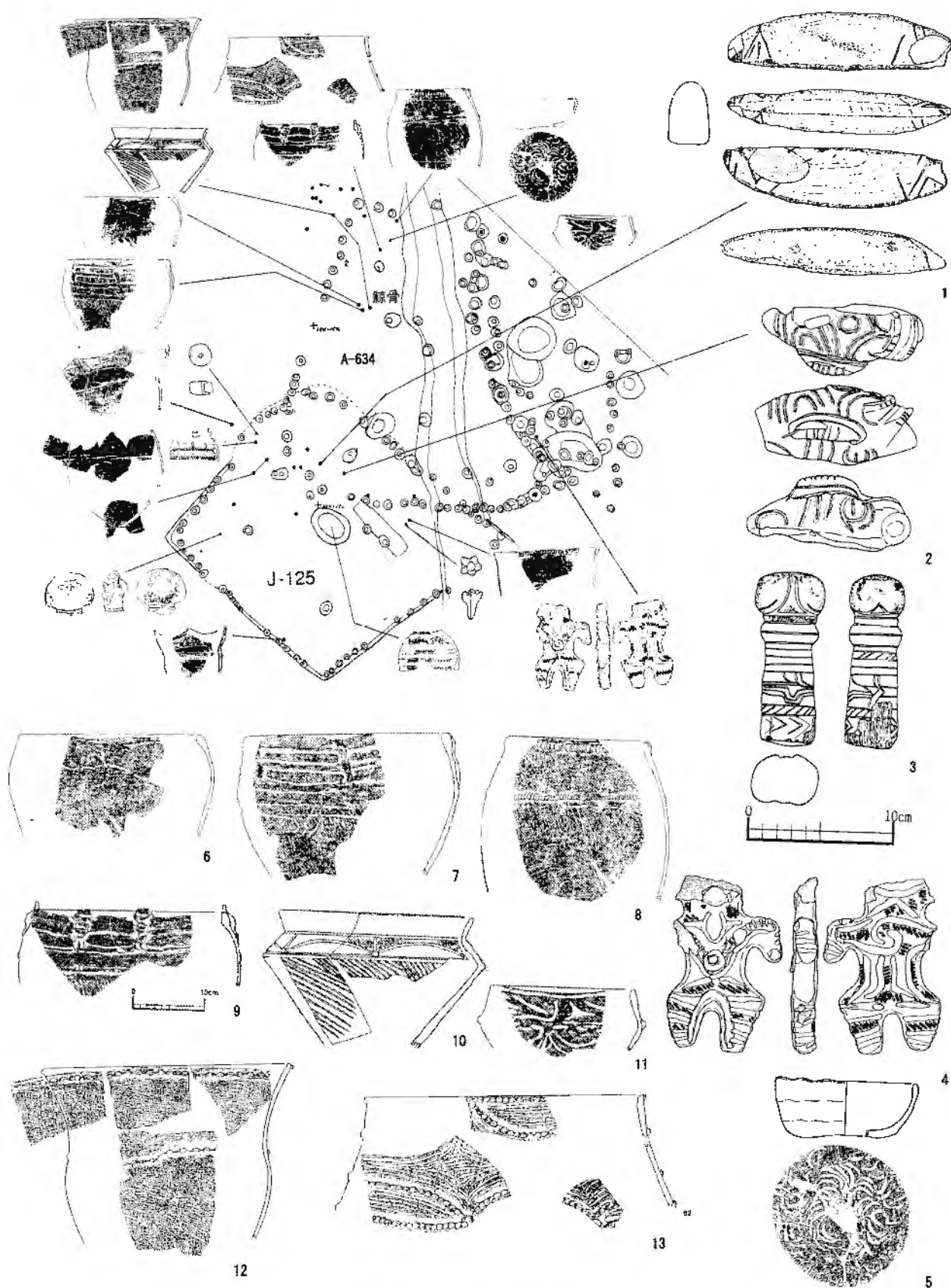
亀形土製品(第3図2)は、全体の1/2で、側縁部に鰓状の突起がみられる。文様は全て沈線により描かれている。表面は遮光器文(目を表現)と短沈線、裏面は中央の円形文を中心に重弧文で文様を描出する。この亀形土製品の大きな特徴は、中実である点と文様が全て沈線により描かれている点である。

(2) D-52出土の石冠(第7・8図)

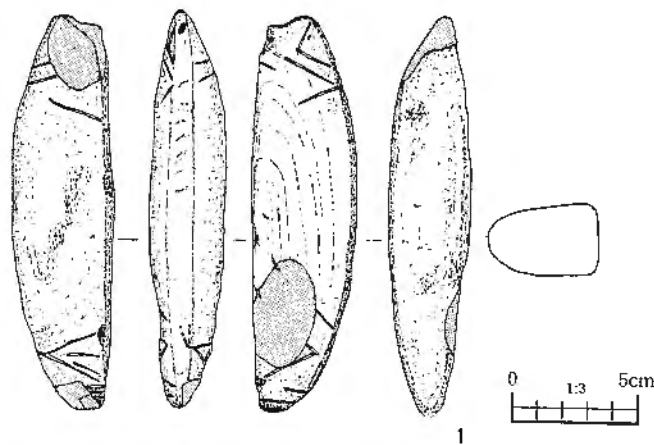
D-52は、遺跡の東側に位置し、安行1式期のJ-23(註5)を切って構築され、覆土内には多量の焼土を含む。石冠(第8図1)は、熱を受けた破片の状態で、土壇全面から出土した。接合で形状を知り得るのは、全体の1/2



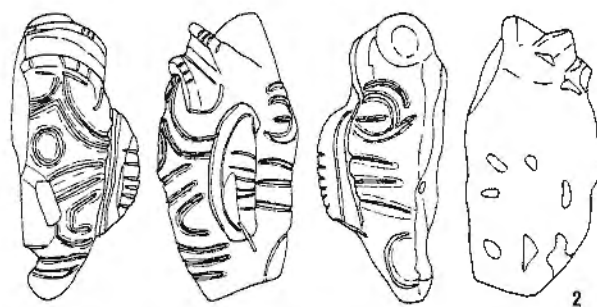
第 1 図 内野第 1 遺跡低地遺構配置図



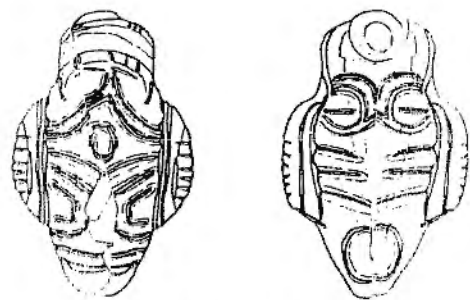
第2図 A-634 遺物実測図



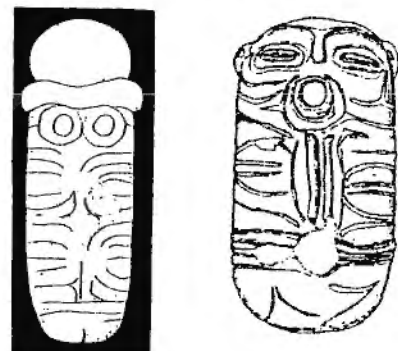
第3図 A-634 出土亀形土製品・石冠実測図



第4図 亀形土製品反復図



第5図 亀形土製品関連資料図

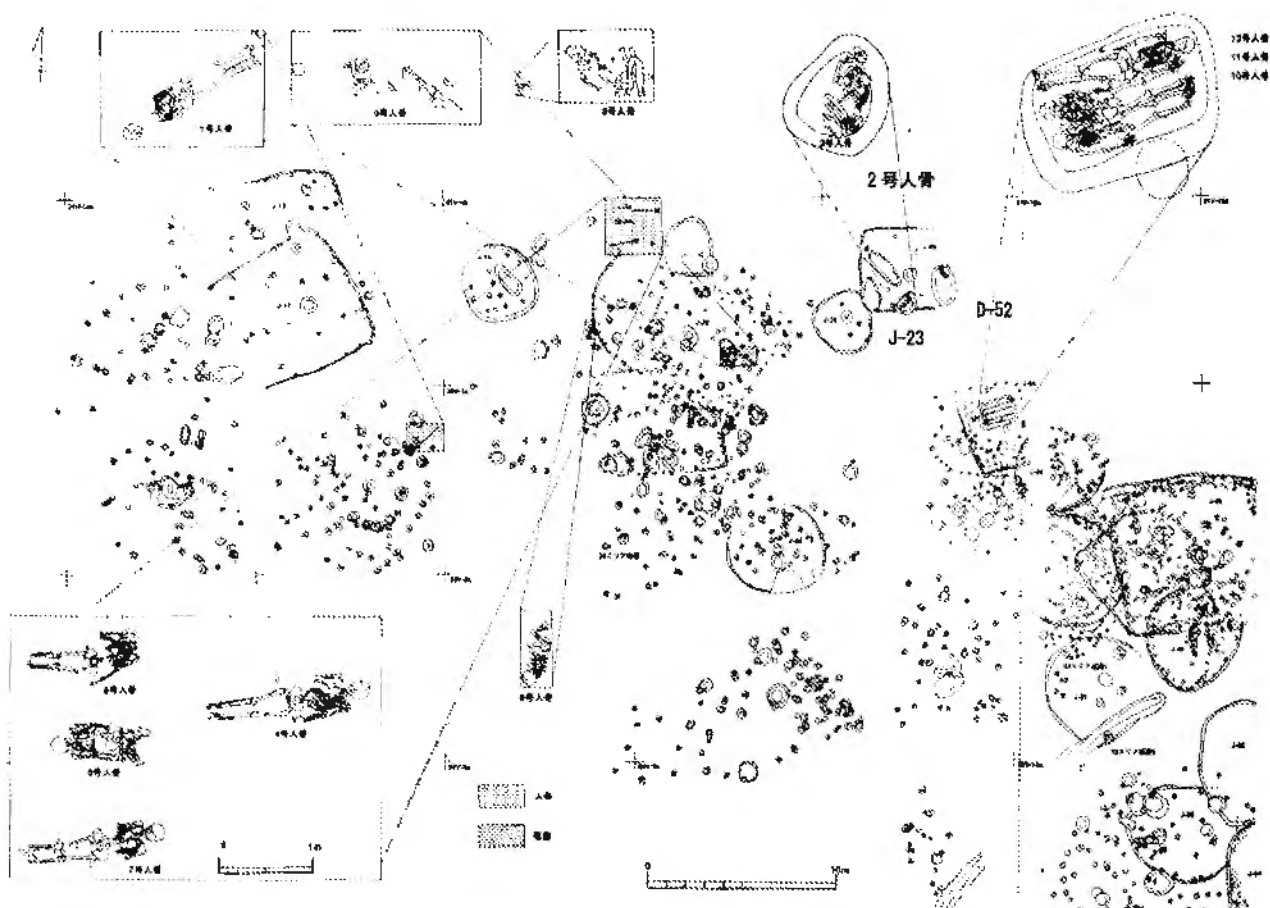


のみであるが、断面口状を呈し、端部附近には3本の線刻により隆線化したものが2本認められる(1a)。他にも、同一手法により編目状を施した破片(1b)が出土しており、他の一端の破片と思われる。土壌内からは、安行2式土器(6~8)を主体とし、耳飾(3)と土偶頭部(4)および蔽石(2)が出土している。南側には、J-23を切って第2号人骨が埋葬されており、周辺は後期後半~晩期前半の墓域が形成されている(第6図)。

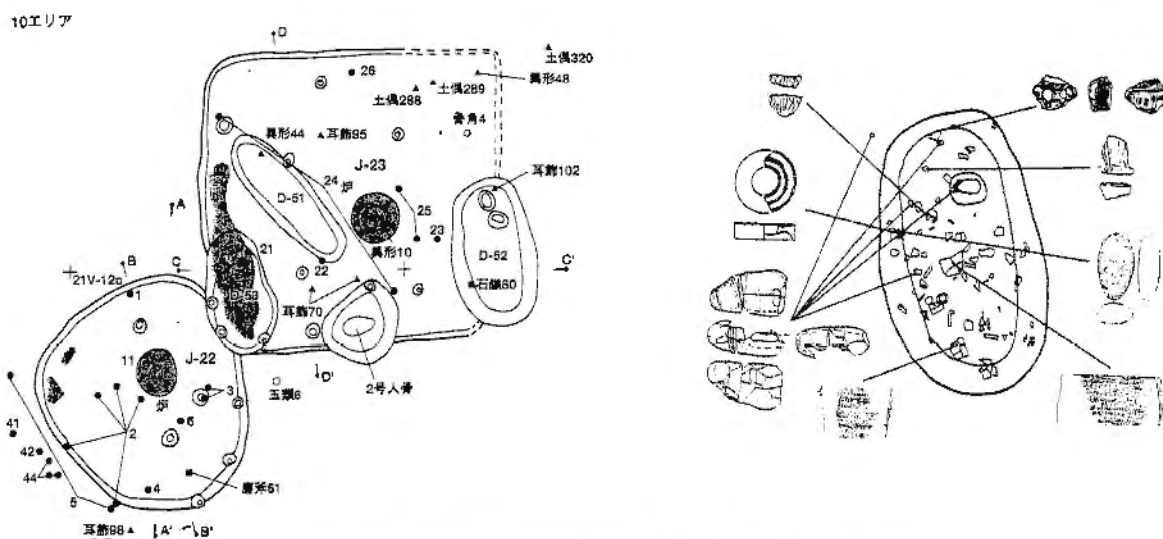
2. 亀形土製品研究の現状と関東地方出土の亀形土製品

動物形土製品については、江坂輝弥・設楽博己・小野美代子氏等により集成が行われている(註6)。東北地方の資料については、『東北民俗学研究』第6号で、北海道を含めた地名表や集成図が示されており(註7)、これらを受けて、斎野裕彦氏による四足獣の分類検討がなされているが(註8)、関東地方では、小倉和重氏による、千葉県を中心としたイノシシ形土製品の集成・分析がなされている(註9)に過ぎない。

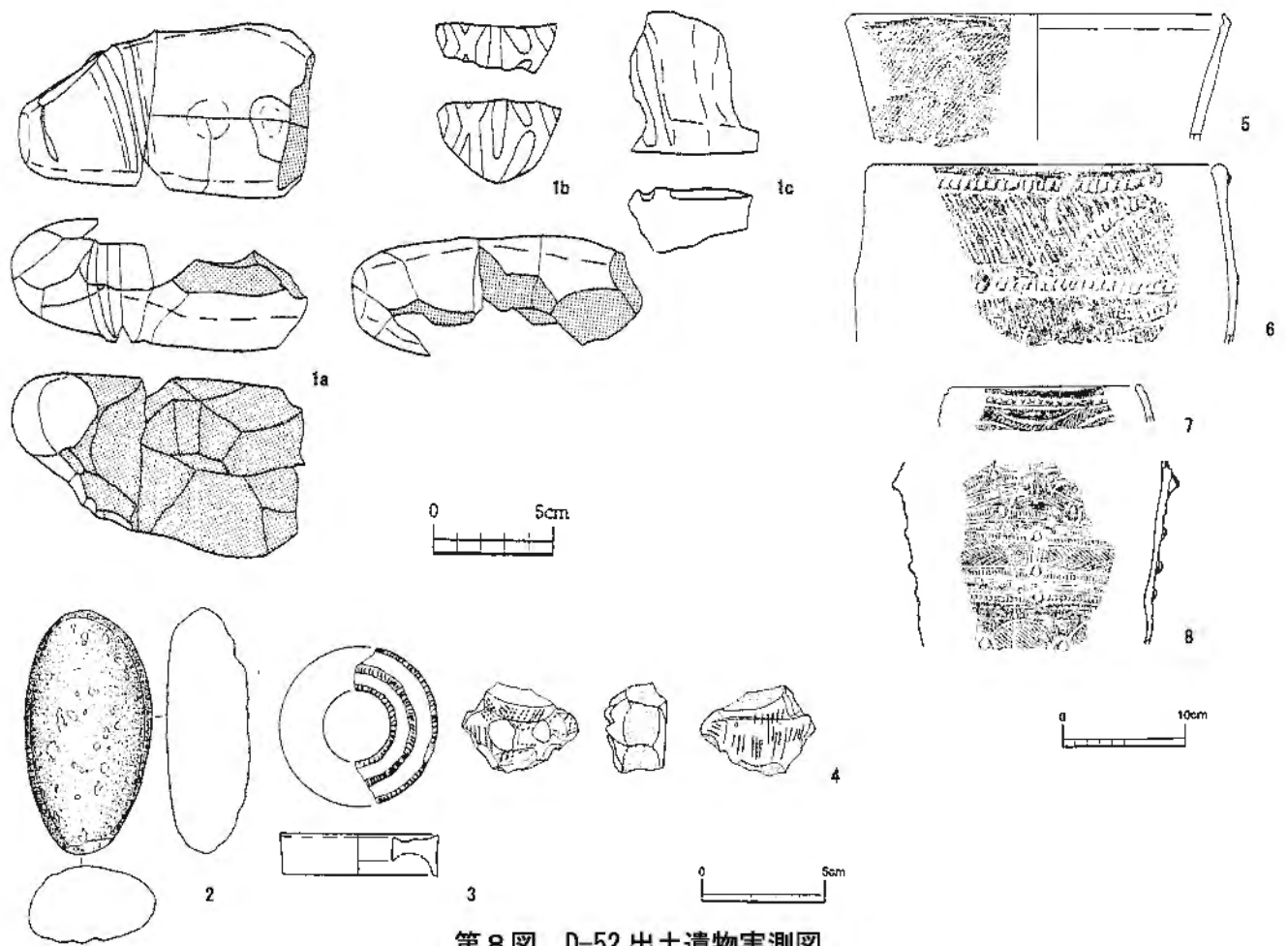
亀形土製品については、小杉康氏が、タブレットとして土版と共に、中空土版として集成を行ったことから検討が始まった(註10)。典型的な、美々4遺跡(第10図1)や東北原遺跡(第13図1)は、従来、亀あるいは海獣(註11)がモデルとされていたが、土肥孝氏はこれを飛翔する水鳥と捉え(註11)、その儀礼行為の復元を行っている(註12)。また、小杉・設楽両氏も、海獣モデルの美々4遺跡例が、伝播するに従い、東北原遺跡例では水鳥のように変化したと捉えた(註13)。さらに、設楽氏は、茨城県坂ノ上遺跡例(第12図10)のような小形の粗製土製品を亀形土製品の範疇に加えた(註14)。金子昭彦氏は、中空亀形土製品を、美々4系列と十腰内系列に分け、前者は東北・北海道地方に分布し美々4類型から蒔前類型へと変化する、関東地方では東北原類型が分布する。後者には東北・北海道地方に分布する十腰内類型と関東地方に分布する柏井類型があるとしている(第10図)(註15)。



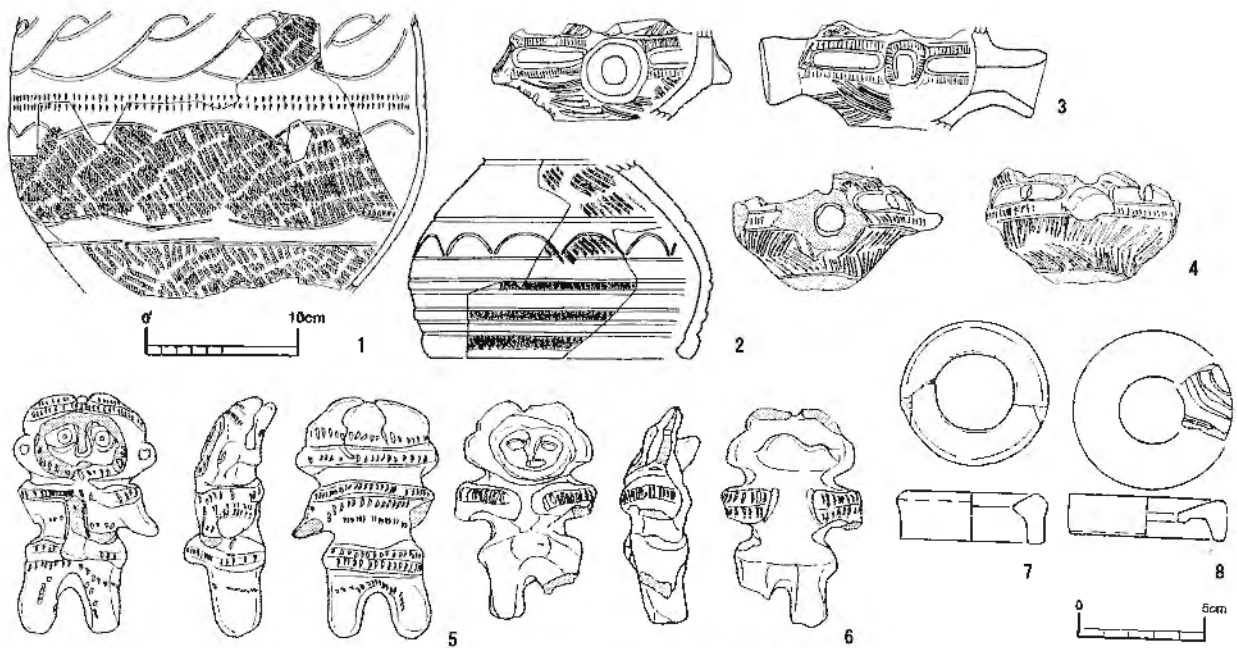
第6図 内野第1遺跡低地墓域地点遺構配置図



第7図 D-52 全体図(左)・遺物出土状況図(右)



第 8 図 D-52 出土遺物実測図



第 9 図 J-23 出土遺物実測図

今回、関東地方の亀形土製品および関連資料の集成を行ったが、イノシシ形土製品については、小倉和重氏により集成・検討が行われているので、今回は割愛した。また、小杉・金子両氏の集成では、従来、中空土版として捉えられていた土製品を含めて集成が行われており、今回の集成でもそれらを加えている。なお図の縮尺は任意で行っており、各資料の出典については、地名表に掲載してある。

千葉県(第11図1~11) - 1は、江原台貝塚出土の典型的な中空亀形土製品で、既に小杉康氏により検討が加えられている。2・3は、吉見台貝塚出土例で、2は、美々4遺跡出土例のように海獣を模した可能性がある。3は、報告者は土版に含めながらも、中央の円孔と下端の鰭状突起の存在により亀形土製品の可能性も示唆している。4は、3と同形態を有する例で、船戸貝塚出土例である。5は、宮内井戸作遺跡出土の中空亀形土製品。6~9は、下ケ戸宮前遺跡出土例。6は、安行3b~3c式期の水鳥形土製品で、頭部と両足を欠失している。8には長辺の片側には小孔があり、紐を通して首から提げて護符として使用した可能性が指摘されており、ミニチュア土器や土製品に多く認められる。10は、六通貝塚出土例で大洞式に伴うと思われる。11は、西広貝塚SN561出土の亀形土製品の破片を含む資料である。この他に、飛ノ台貝塚出土の獣面を模した早期後半の土製品や、千代田遺跡の鳥形土製品の頭部がある。

茨城県(第12図1~17) - 1は、小野天神前遺跡出土の、典型的な中空亀形土製品。2~5は楕円形の中空亀形土製品で、2・3・7は片山遺跡出土。頭頂部には穿孔がある。4は、八千代町出土。同様の形態のものは、小野天神前遺跡からも出土しているが、中空中実や穿孔の有無等の詳細は不明である。5は、金洗沢遺跡出土例で、×状の刻線と縄文が施されている。6・7は、中空亀形土製品の破片。10は、鹿窪坂の上遺跡出土の無文の亀形土製品であるが、下肢が表現されている。11・12は、恩名新立遺跡出土の中空亀形土製品で、重なって出土したと伝えられている。中空土版と成形手法が類似する。12は、長野県大崎遺跡出土例と形態が類似する。14~16は、中空の人面付土版で、14・16は、柏井遺跡出土、15は西塙遺跡出土例である。14・16については、以前に検討を行っている(註1)。17は、上境旭台貝塚から出土した、亀の意匠文を施したと思われる浅鉢形土器である。

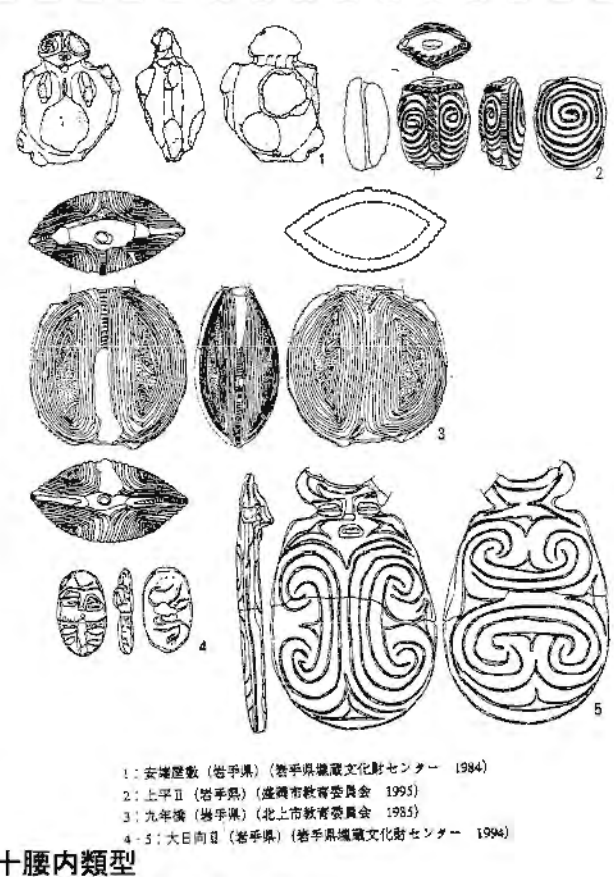
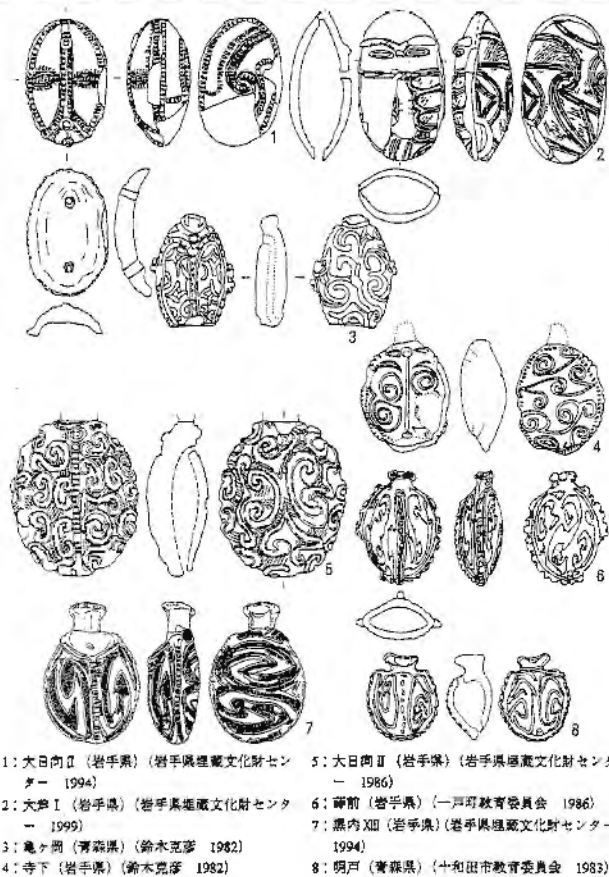
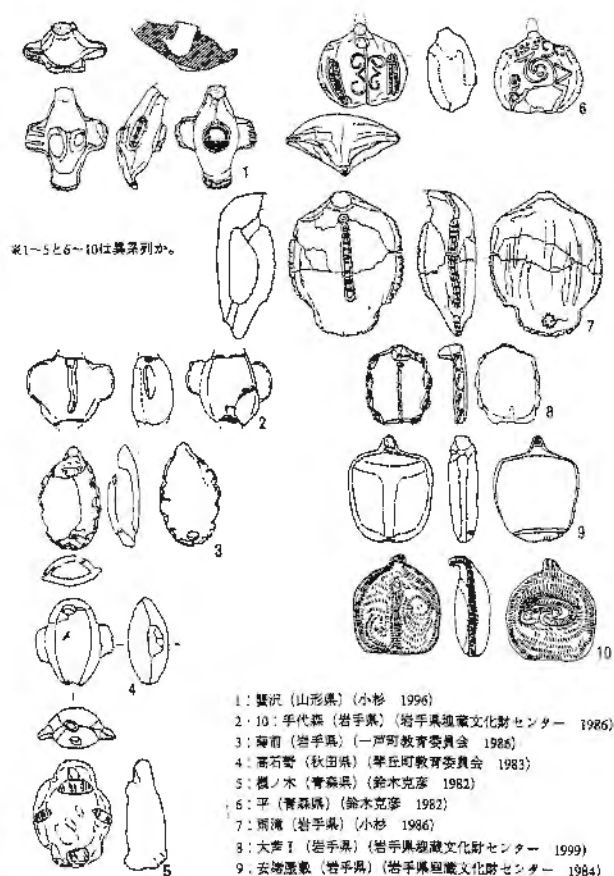
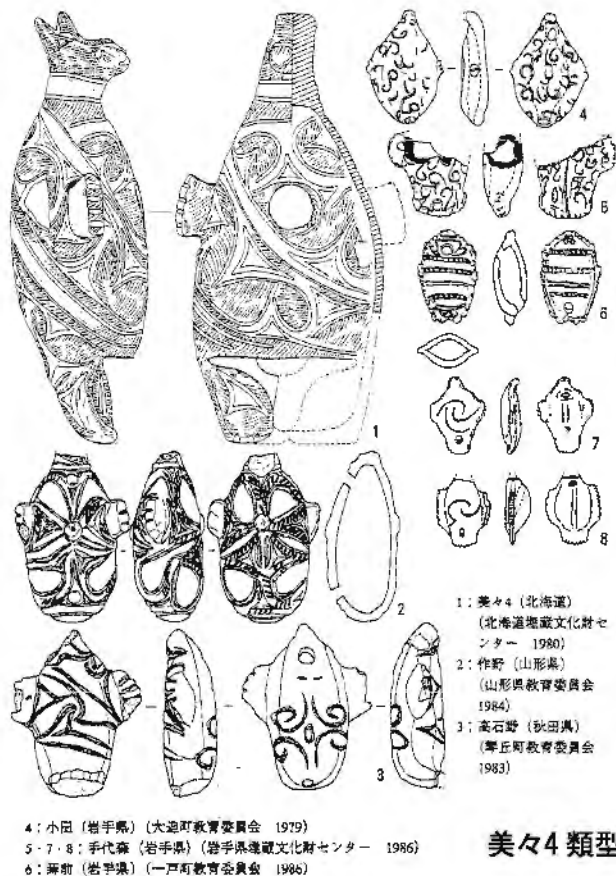
埼玉県(第13図1~6) - 1は、東北原遺跡第2号住居出土。3は、久台遺跡第4号住居出土の中空亀形土製品で、土井孝・鈴木正博両氏により検討が加えられている(註16)。4は、真福寺貝塚出土例で、詳細は不明。同貝塚からはサル形土製品、ペンギン形土製品とされるものも出土している。5・6は前田遺跡出土の中空亀形土製品の破片である。

東京都(第14図1・2) - 1は、南広間地遺跡から出土した例。小杉康氏により検討が加えられている。2は、下沼部貝塚から出土した中空土製品。江坂輝弥氏により昆虫形土製品あるいはカマキリ形土製品とされたもの。この他に、木曽森野遺跡からは、加曽利E3式期のJ-1号住居から動物形土製品が出土している。

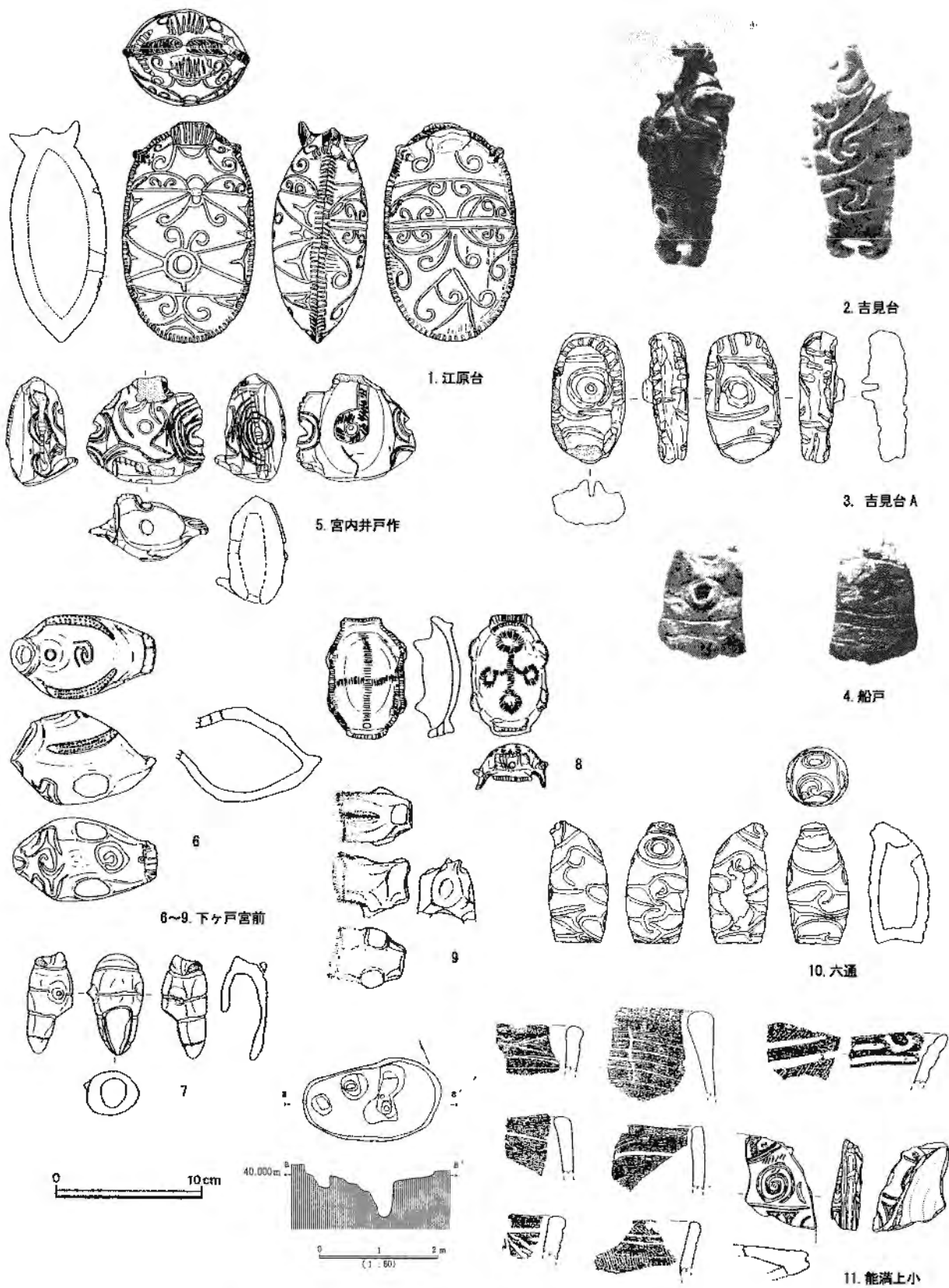
神奈川県(第14図3) - 3は華蔵台遺跡から出土した中空の土製品である。

長野県(第14図4・5) - 4は雁石遺跡4号石棺墓出土の魚形土製品と呼称されている中空土製品。同遺跡は縄文後期初頭~晩期中葉までの敷石住居や石棺墓、配石遺構が多く検出され、亀形土製品が唯一墓壇から出土した例である。5は大崎遺跡出土例。

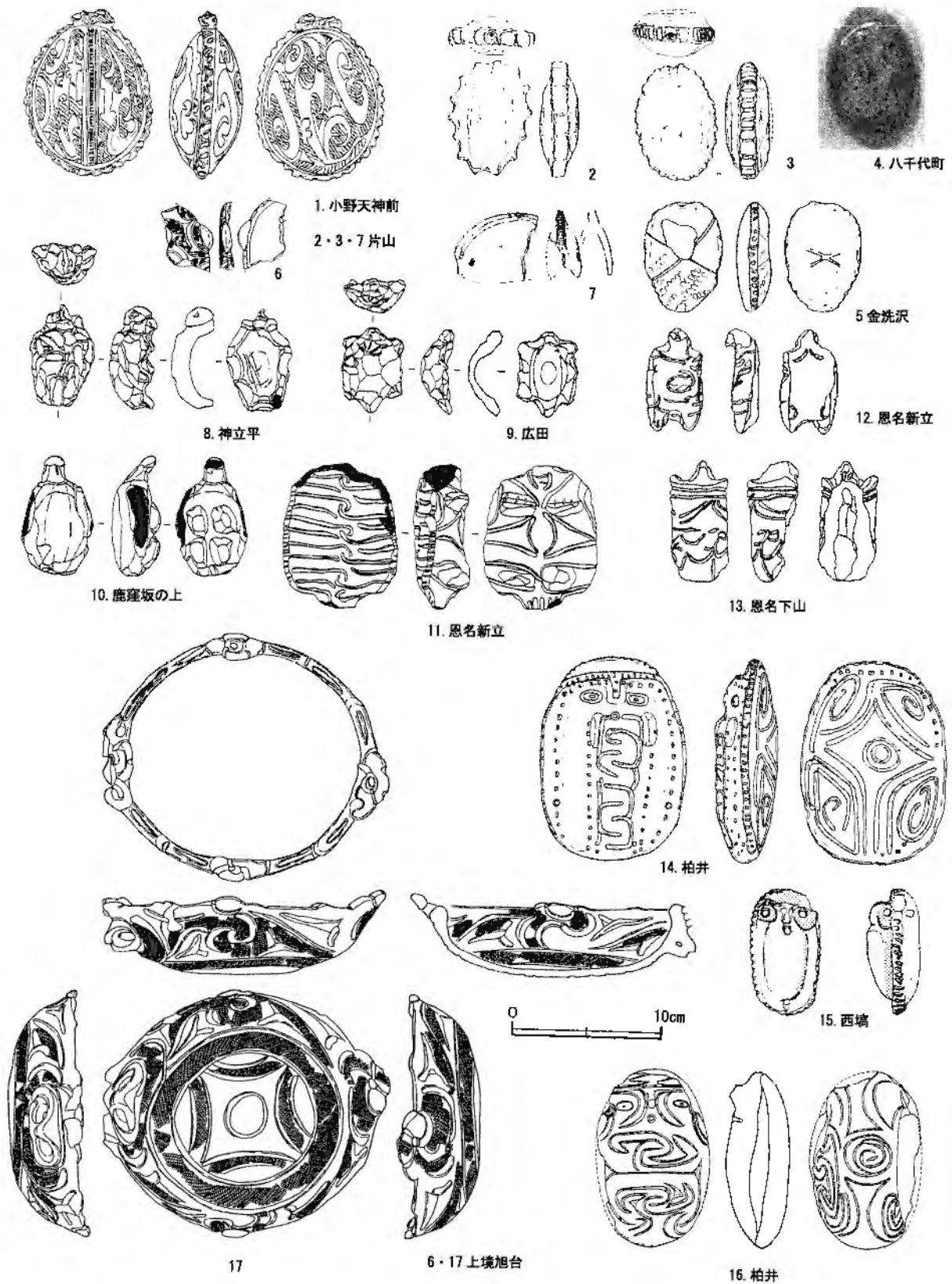
これらの土製品は、千葉県の印旛沼周辺と茨城県北部に多く、西関東地方からの出土は極めて少ない。これらは、以下のような分類が可能と思われる。



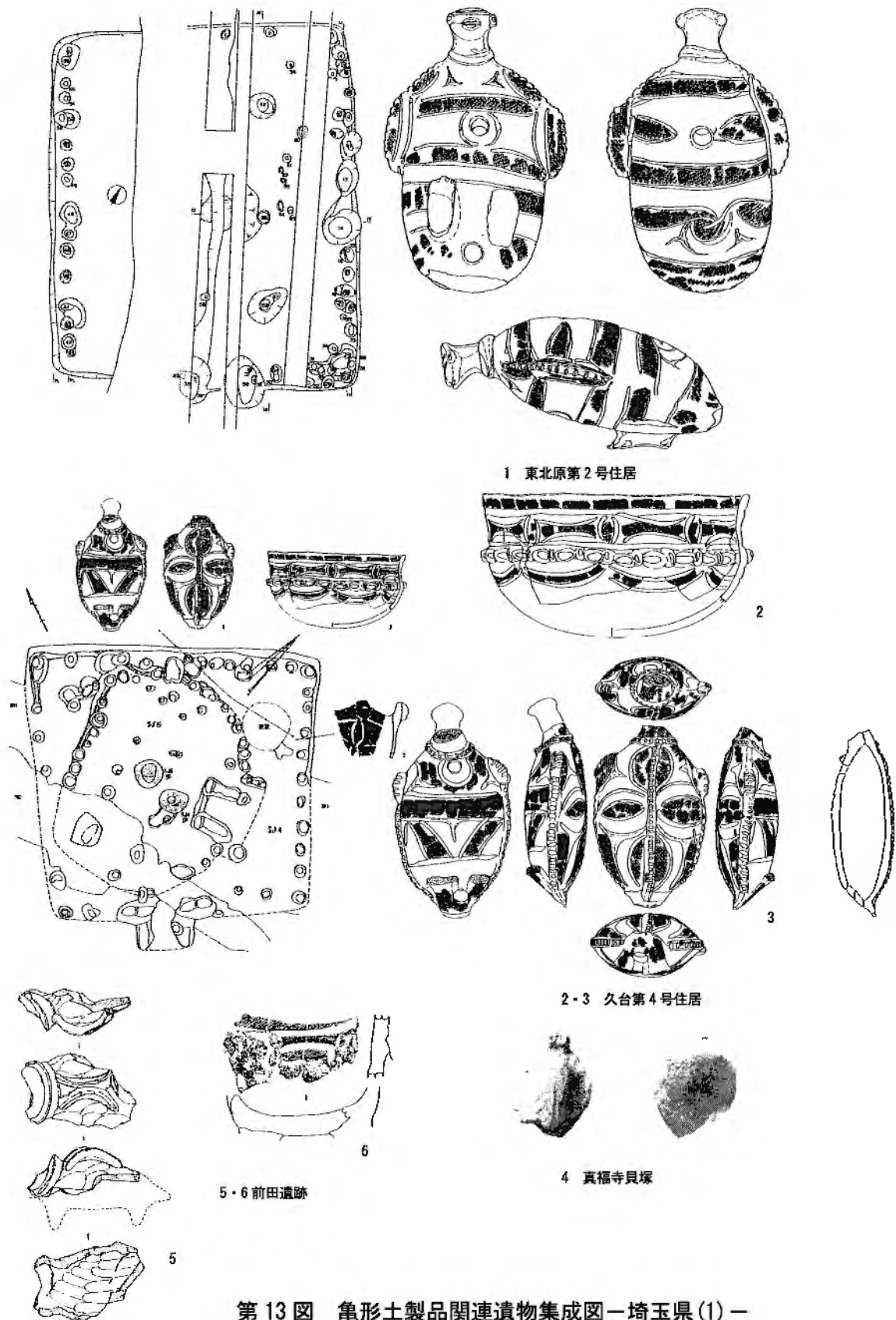
第 10 図 金子昭彦氏による亀形土製品集成図



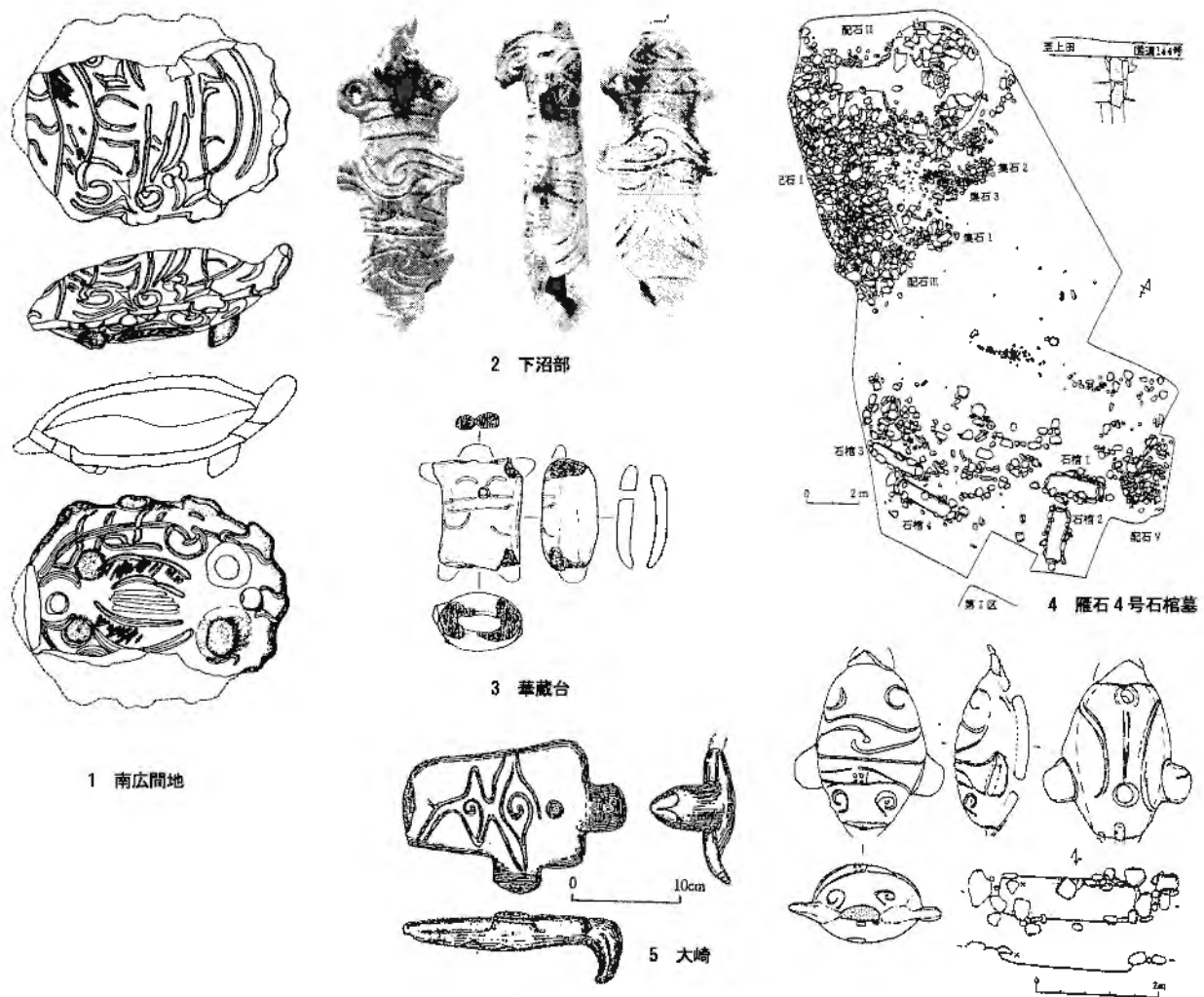
第11図 亀形土製品関連遺物集成図—千葉県—



第 12 図 亀形土製品関連遺物集成図—茨城県—



第13図 亀形土製品関連遺物集成図一埼玉県(1)一



第 14 図 亀形土製品関連遺物集成図—東京都・神奈川県・長野県—

中空土製品

- A. 吉見台遺跡出土例の海獣を模したと思われるもの。
- B-1. 東北原・久台遺跡出土例の大形の楕円形を呈する中空土製品。文様が磨り消し縄文で構成されるもの。
- B-2. 江原台・大広間地・雁石遺跡出土例の、B-1と同様な形態で沈線のみで文様を構成するもの。
- C. 小野天神前出土例の小形の円形を呈するもの。
- D. 柏井遺跡・西塙出土例の人面を描くもの。
- E. 片山遺跡・八代町出土例の小形の楕円形を呈し文様のないもの。金洗沢遺跡出土例はX状の刻線と縄文がある。

中実土製品

- A. 吉見台A遺跡・舟戸貝塚出土例の中央に突起状の円孔を有するもの。
- B. 下ヶ戸宮前遺跡・神立平遺跡・広畑貝塚出土例の亀の甲羅部分のみ表現したもの。

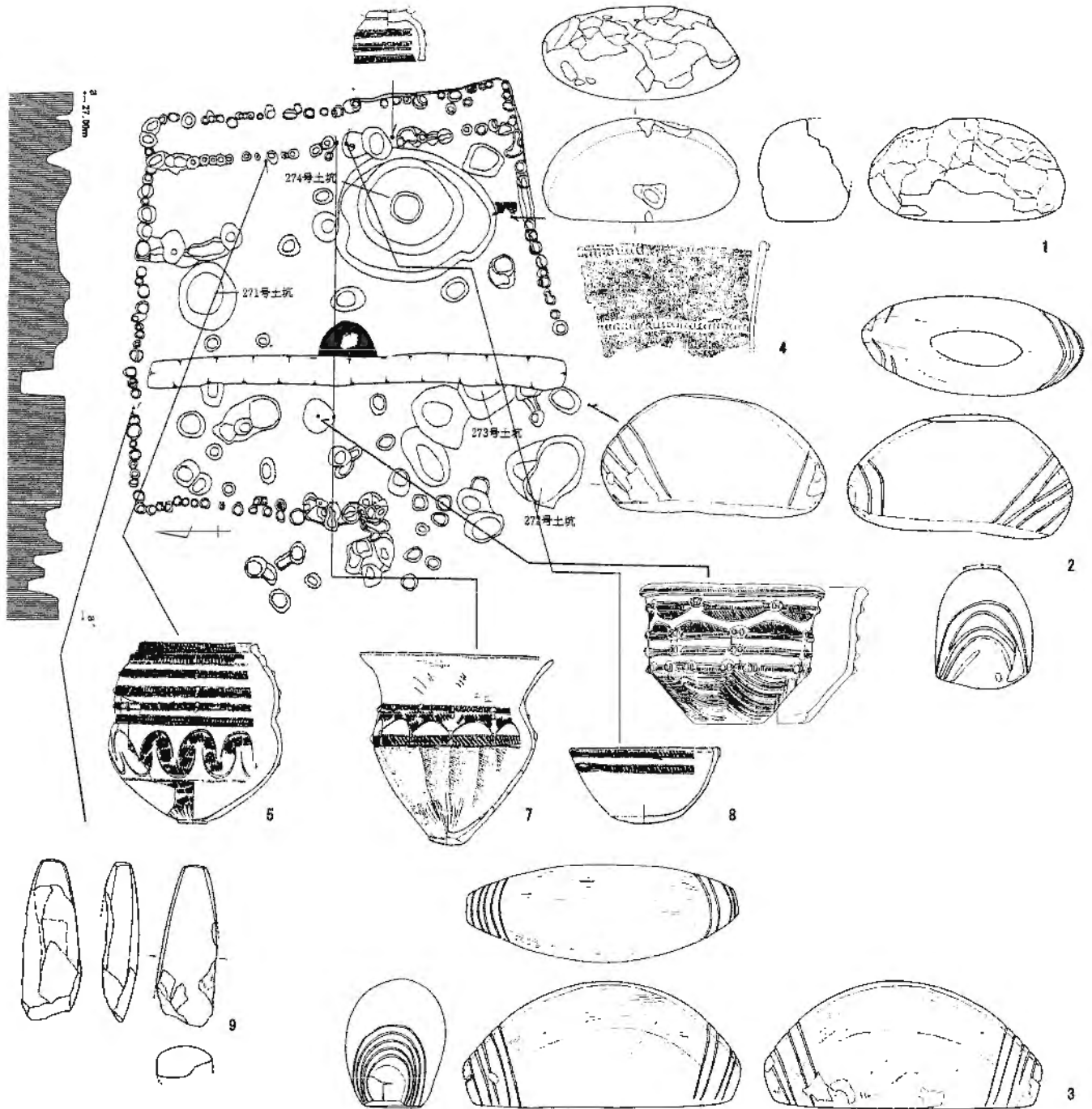
第1表 関東地方の亀形土製品関連資料出土遺跡一覧表

県名	遺跡名	遺構No	時期	図No	備考	文	献
千葉	内野第1	A-534	晩期			田中英世・古谷渉	2001 『内野第1遺跡発掘調査報告書』(財)千葉市文化財調査協会
	江原台		晩期	11 図 1		小杉康	1986 「千葉県江原台遺跡及び若手県雨滝遺跡出土の動物形土製品」『館報』No2 明治大学考古学博物館
	吉見台		晩期	11 図 2		印旛都市文化財センター	2007 「吉見台遺跡」『印旛の原始・古代』
	吉見台		晩期	11 図 3		林田俊之	1999 「千葉県佐倉市吉見台遺跡A地点」『財団法人印旛都市文化財センター発掘調査報告書第159集』(財)印旛都市文化財センター
	船戸		後～晩期	11 図 4	(東大)186-1・2	磯前順一・赤澤威	1996 『東京大学総合研究博物館蔵縄文時代土偶・その他土製品カタログ増訂版』言叢店
	宮内井戸作南	表探	後～晩期	11 図 5		小倉和重	2009 「宮内井戸作遺跡(縄文時代遺物類)」『印旛都市文化財センター調査報告書第266集』(財)印旛都市文化財センター
	下ヶ戸宮前		後～晩期	11 図 6		石田守一	2005 「縄文時代の展開」『我孫子市史 原始・古代・中世編』
	下ヶ戸宮前		後～晩期	11 図 7		石田守一	2005 「縄文時代の展開」『我孫子市史 原始・古代・中世編』
	下ヶ戸宮前		後～晩期	11 図 8		石田守一	2005 「縄文時代の展開」『我孫子市史 原始・古代・中世編』
	下ヶ戸宮前		後～晩期	11 図 9	(小倉)18	石田守一	2005 「縄文時代の展開」『我孫子市史 原始・古代・中世編』
	六通		大洲	11 図 10		西野雅人・関口達彦	2007 「千葉県東南部ニュータウン37-千葉市六通貝塚」『千葉県教育振興財団調査報告書第672集』(財)千葉県教育振興財団
茨城	龍淵上小	96号土壇	晩期	11 図 11		忍沢成規	1996 「市原市龍淵上小貝塚」『市原市文化財センター調査報告書第66集』(財)市原市文化財センター
	小野天神前		晩期	12 図 1		茨城県	1979 『茨城県史 資料編 縄文時代』
	片山		後～晩期	12 図 2		橋口尚武・高橋建樹	1980 「茨城県常北町片山遺跡の表層遺物」『考古学雑誌』66-3
	片山		後～晩期	12 図 3		橋口尚武・高橋建樹	1980 「茨城県常北町片山遺跡の表層遺物」『考古学雑誌』66-3
	八千代町		後～晩期	12 図 4		藤田美紀	1998 『第5回企画展 大地の折りへ縄文の呪具へ』下妻市ふるさと博物館
	金洗沢		後～晩期	12 図 5		瓦吹堅	1991 「水戸市金洗沢遺跡の土偶」『茨城県立歴史館報』18
	上境旭台	54号土壇	晩期	12 図 6		芝山正広他	2009 「上境旭台貝塚」『茨城県教育財団文化財調査報告書第326集』
	片山		後～晩期	12 図 7		橋口尚武・高橋建樹	1980 「茨城県常北町片山遺跡の表層遺物」『考古学雑誌』66-3
	神立平		後～晩期	12 図 8		関口清	1987 「神立平遺跡出土亀形土製品について」『土浦市立博物館紀要』第8号
	広畑	安行2	12 図 9			金子裕之	1979 「茨城県広畑貝塚出土の後・晩期縄文土器」『考古学雑誌』66-1
	鹿塚坂ノ上		後～晩期	12 図 10	(設案)159		1980 「鹿塚坂ノ上遺跡発掘調査報」『結城市文化財調査報告書第1集』結城市教育委員会
栃木	愚名新立		後～晩期	12 図 11		阿久津久・小林實	1980 「茨城県内臼土の動物形土製品」『考古学雑誌』66-3
	愚名新立		後～晩期	12 図 12		阿久津久・小林實	1980 「茨城県内臼土の動物形土製品」『考古学雑誌』66-3
	鴻巣徳源院		後～晩期	12 図 13		阿久津久・小林實	1980 「茨城県内臼土の動物形土製品」『考古学雑誌』66-3
	柏井		晩期	12 図 14		常総台地研究会	1972 『土偶・土版・岩偶・岩版(その1)』
	西橋		後～晩期	12 図 15		川上博義・阿久津久	1976 「縄文時代における文化の領域的研究」『茨城県立歴史館報』3
	柏井		晩期	12 図 16		常総台地研究会	1972 『土偶・土版・岩偶・岩版(その1)』
	上境旭台	Aトレンチ	安行3a	12 図 17		芝山正広他	2009 「上境旭台貝塚」『茨城県教育財団文化財調査報告書第326集』
	藤岡神社					手塚達也	1999 「藤岡神社遺跡」『栃木県埋蔵文化財調査報告書第197集』(財)栃木県文化振興事業団
	東北原	2号住居	晩期	13 図 1	(設案)157	立木新一郎・山形洋	1985 「東北原遺跡発掘調査報告-第6次調査-」『大宮市文化財調査報告書第19集』大宮市教育委員会
	久台	4号住居	安行3b	13 図 3		新屋雅明・菊地真	2007 「久台遺跡Ⅲ」『埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第339集』(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
	真福寺		後～晩期	13 図 4	(東大)178-5・6	磯前順一・赤澤威	1996 『東京大学総合研究博物館蔵縄文時代土偶・その他土製品カタログ増訂版』言叢店
埼玉	前田		後～晩期	13 図 5		奥野友生	1998 「前田遺跡-町内遺跡群調査報告書Ⅶ-」『白岡町埋蔵文化財調査報告書第9集』『白岡町教育委員会』
	前田		後～晩期	13 図 6		奥野友生	1998 「前田遺跡-町内遺跡群調査報告書Ⅶ-」『白岡町埋蔵文化財調査報告書第9集』『白岡町教育委員会』
	石神		晩期			江坂輝弥	1969 「下沼部貝塚出土の動物土偶と紡錘車形土製品」『考古学』第10巻3号
	南広間地		安行3a	14 図 1		持田友宏・木津博明	1979 「南広間地遺跡試掘調査報告」『日野市資料編』日野市史編纂委員会
				14 図 1		坂詰芳一編	1984 「南広間地遺跡試掘調査報告」『日野市考古研究』第2号 日野考古学会
	下沼部		晩期	14 図 2	(東博)303	江坂輝弥・久保田辰弥他	1929 「下沼部貝塚貝塚出土の動物土偶と紡錘車形土製品」『考古学』第10巻3号
				14 図 2		磯前順一・赤澤威	1996 『東京大学総合研究博物館蔵縄文時代土偶・その他土製品カタログ増訂版』言叢店
	神奈川	華蔵台		14 図 3		石井寛	2008 「華蔵台遺跡」『港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告41』
	長野	雁石	4号石棺墓	晩期	14 図 4	箱山好敏他	1998 「縄文時代」『真田町誌歴史編(上)』
	大崎		晩期	14 図 5		設案博巳	2006 「縄文の亀」『亀の考古学』東方出版

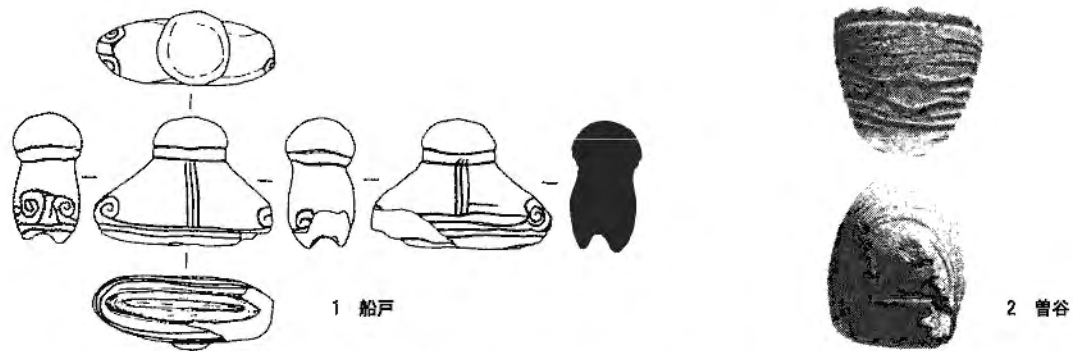
C. 鹿窪坂の上出土例のように、文様を施さないが四肢を表現しているもの。

D. 恩名新立遺跡・大崎遺跡出土例のように頭部が嘴のように突出するもの。

金子昭彦氏の類別を適用すれば、中空土製品の A は美々 4 系列美々 4 類型、B は同系列東北原類型、C は十腰内系列十腰内類型、D は同系列柏井類型に比定される。



第 15 図 石冠関連遺物集成図—千葉県(1)・祇園原遺跡—



第16図 石冠関連遺物集成図—千葉県(2)—

3. 内野第1遺跡出土の亀形土製品の特質

亀形土製品とされる資料は、小杉・金子両氏の集成図(註17)によれば、左右対称の文様が多く、特に沈線のみで文様を構成する例に、その傾向が強く認められる。本資料を左右対称に展開した図が第4図であるが、このような文様構成を形成する資料は、前記の集成図には認められない(註16)。表面の遮光器文を目として捉えた場合は、人面付土製品の可能性がある(註17)。裏面の円形文を中心とした重弧文については、真福寺遺跡や加比羅山上遺跡出土例のように、関東地方の土版に多く用いられており、菱形区画文と併用される例が多い。鷹野光行氏はA類第1類、稲野彰子氏は第1種第1類A類として、晩期の安行3b式期前後としている(註18)。本資料裏面の中央部の円形文は、中空亀形土製品の孔を表現したと思われ、両者の強い関連性が窺える。

4. 石冠研究の現状と関東地方出土の石冠

石冠については、中島栄一氏が、東日本の192遺跡340点の石冠と、24遺跡30点の土冠の集成検討(註19)を行って以降、石冠が多く出土している岐阜県や北陸地方を中心として、新たな集成検討が行われている(註20)のみであり、あまり進展はみられない。これまでの石冠研究の現状と課題については、岡本孝之氏(註21)や滝沢規朗氏により纏められている(註22)が、研究の中心は集成・分類である。石冠は、遺構から出土する例が少なく、出土状態等まで踏み込んで検討を加えているのは、堀越正行氏の千葉県船戸貝塚の石冠形土製品に関係する論考(註23)のみである。

関東地方では、石冠・土冠自体の出土は極めて少なく、前記の堀越氏の論考の他には、後藤信裕氏による球頭形石冠・土冠の集成検討(註24)や、茨城県内の資料紹介が認められるのみである(註25)。

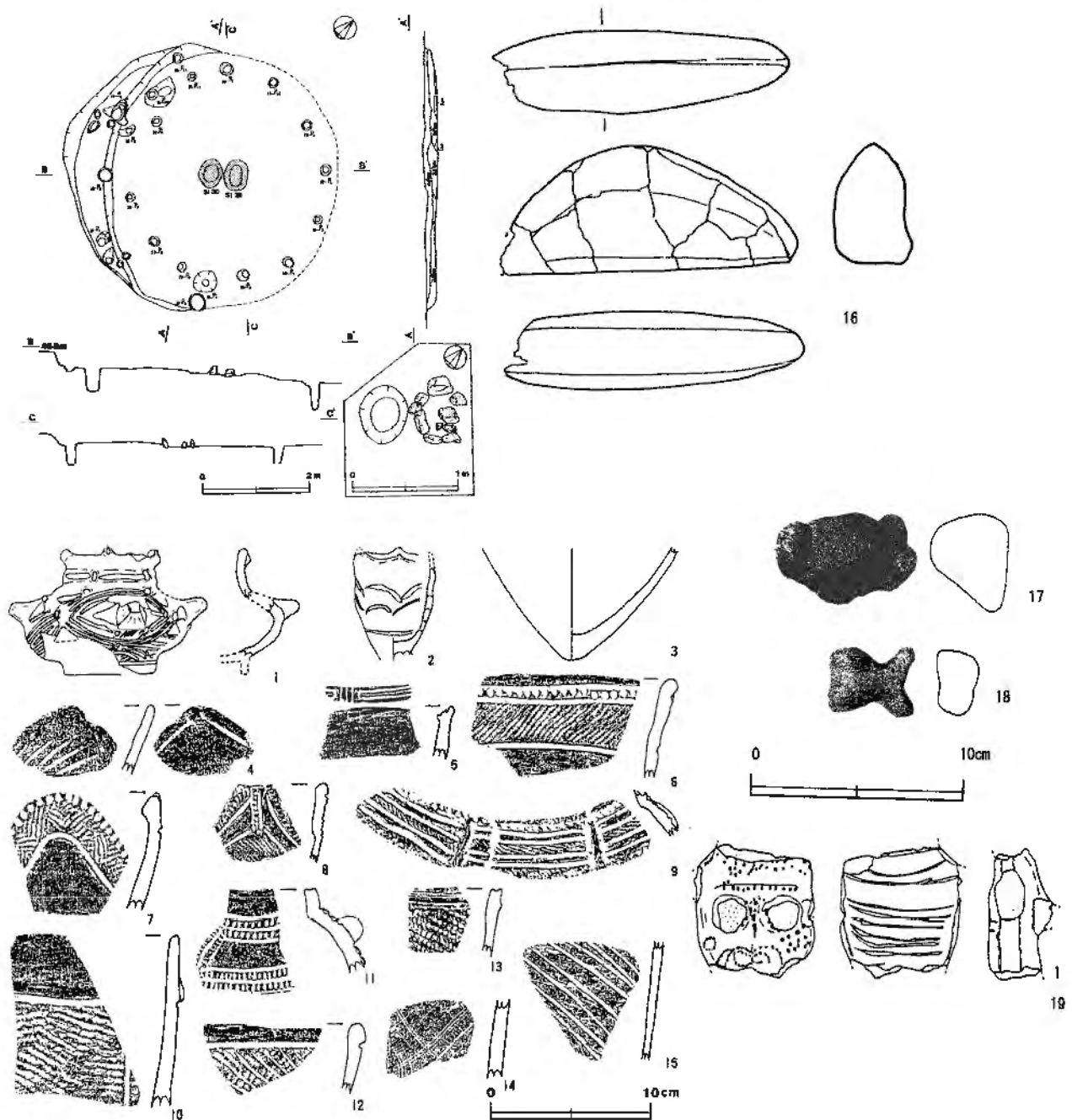
今回、関東地方の集成を行ったものが第2表である。ここでは、石冠を出土した遺構を中心にみていく。

千葉県・祇園原貝塚43号住居(第15図)—奥壁5.8m・左右の壁6.2m・前面の壁7.2mの台形を呈する安行1式期の住居。床面はソフトローム上面で、床面上に焼土や炭化物が部分的に集中する。1～3の3点の石冠が出土し、1と2の2点は被熱している。2と3の2点は両端に沈線を施している。これらは住居廃棄後の祭祀行為によるものと思われる。

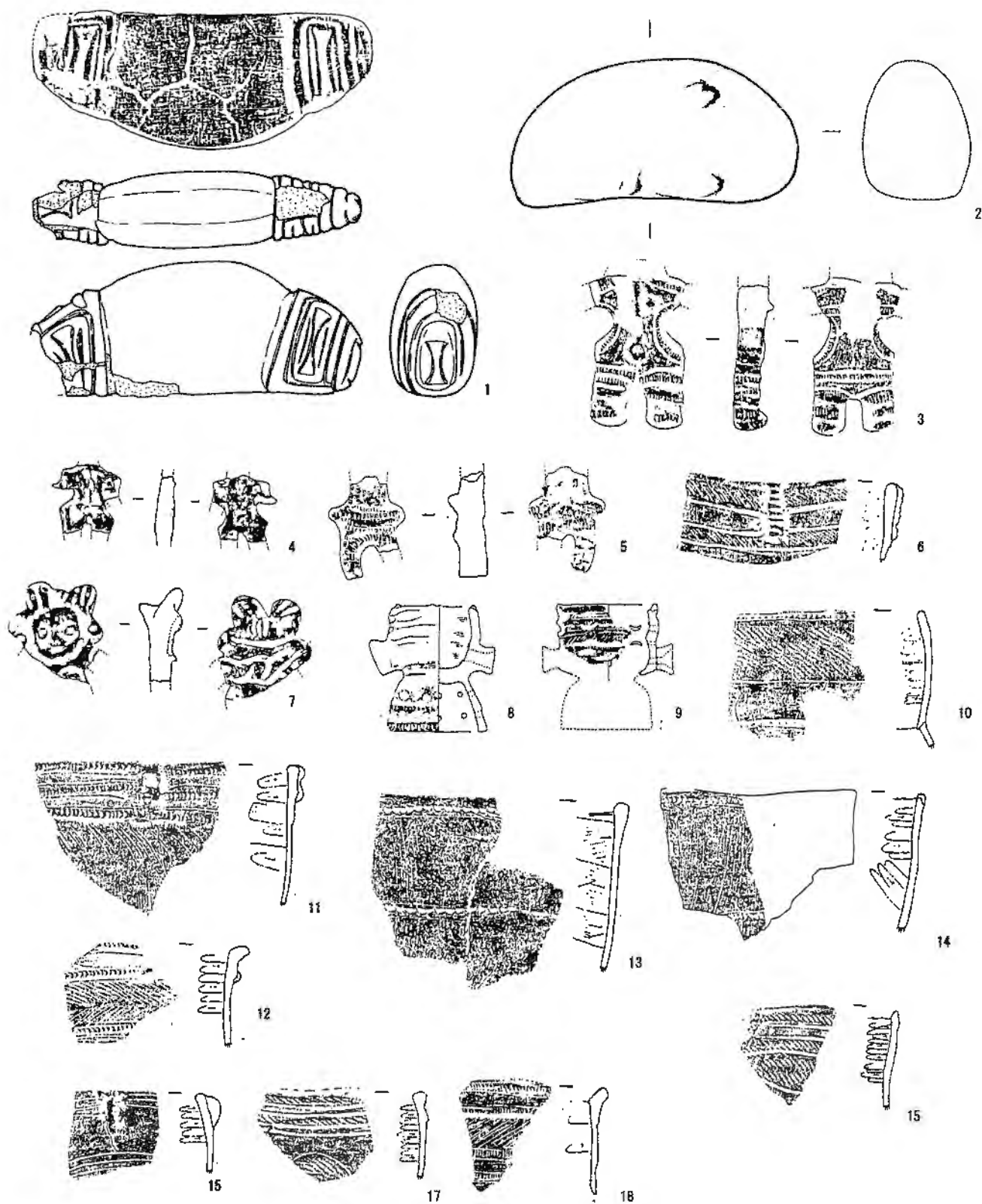
茨城県・小場遺跡第29号住居(第17図)—長径5.00m・短径4.40mの楕円形を呈する曾谷式期の住居。覆土は骨粉を少量含む自然堆積で、石囲炉を有する。住居内からは香炉形土器と土偶脚部が出

土している。出土した石冠は1点で文様はない。

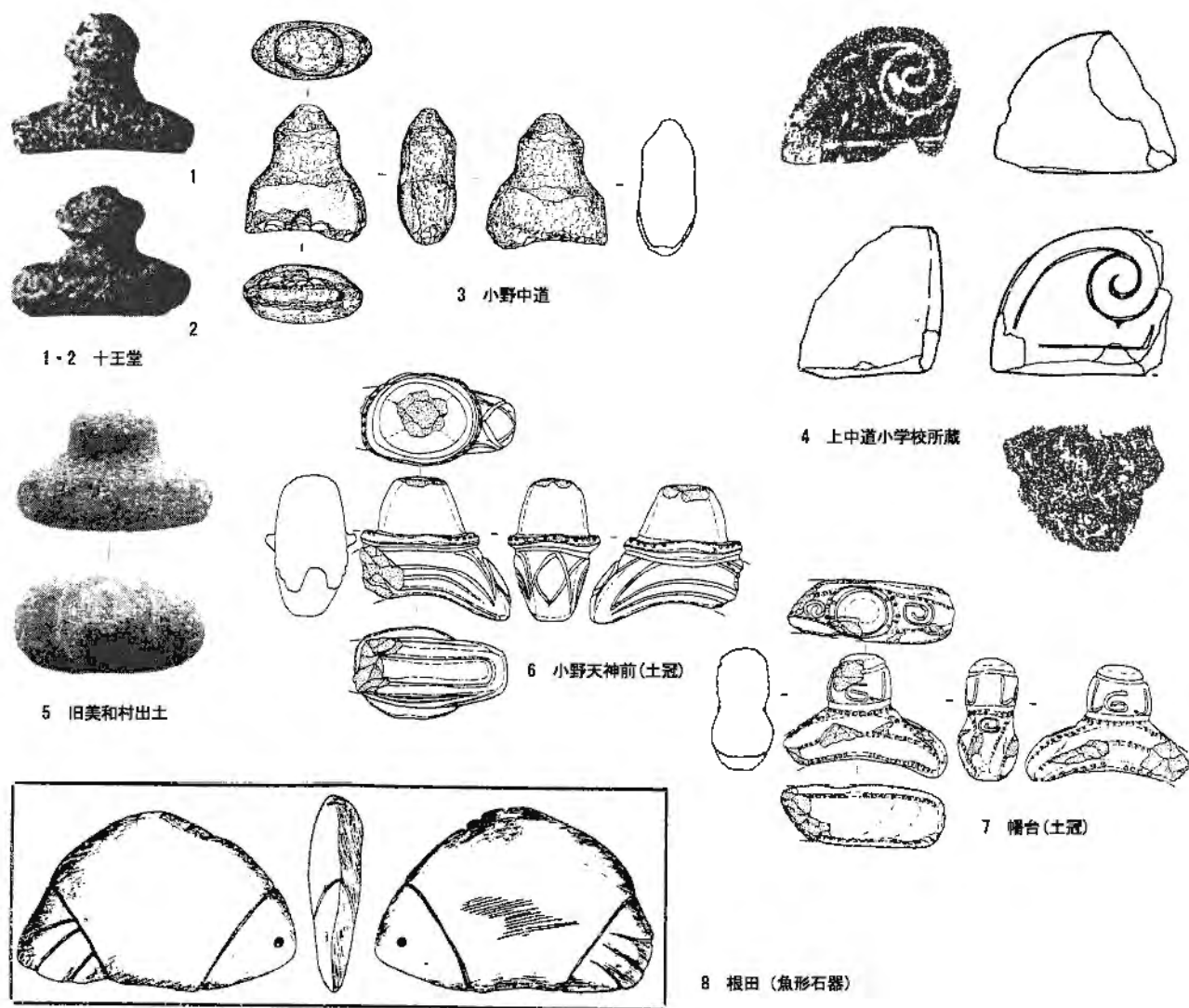
茨城県・北方貝塚第10号住居(第18図)ー長軸19.5m・短軸15.5mの帆立貝状の形態を呈する大型住居である。炉が3ヶ所検出されており、3軒の拡張または重複と思われる。土器は安行1・2式を主体としており、他に土偶4点・異形台付土器1点等が出土している。石冠は、第16区から1点と第17区から1点の計2点が出土しており、第17区の石冠(第18図1)には両端に線刻が認められる。床面には6ヶ所の焼土が検出されており、祇園原貝塚同様、住居廃棄後に祭祀行為が行われた可能性がある。



第17図 石冠関連遺物集成図ー茨城県(1)・小場遺跡ー



第18図 石冠関連遺物集成図一茨城県(2)・北方貝塚一



第19図 石冠関連遺物集成図－茨城県(3)－

栃木県・八剣遺跡SI-11(第20図)－直径6.0mの円形を呈する曾谷式期～安行1式期の住居で、炉が2回構築されている。石冠1点(第20図3)が出土しており、赤色顔料の付着が認められる。遺構外からも石冠1点(第20図4)が出土しており、赤化黒変が認められ、2次焼成を受けた可能性がある。

栃木県・御霊前遺跡SI-08(第21図1・2)－直径3.5mの円形または楕円形を呈し、覆土は炭化粒・焼土粒・骨片を微量ふくんでいる。石冠形土製品が1点出土し、2次焼成を受けている。網目状撚糸文土器が出土しており、大洞C2式期と思われる。

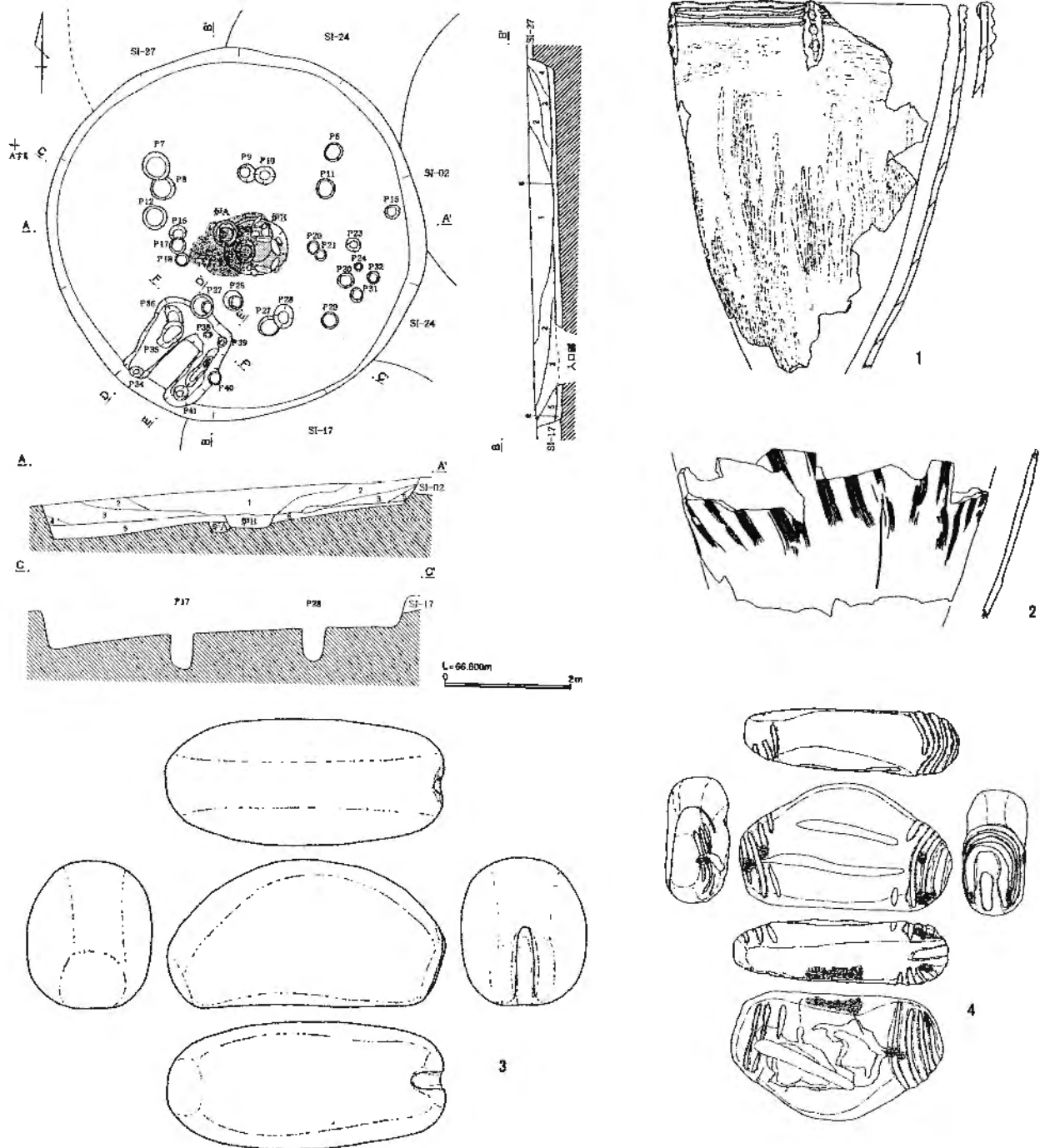
栃木県・川戸釜八幡遺跡SI-395(第21図14・15)－住居跡の壁際床面から出土。球頭形石冠と石鋸形石冠の計2点が出土。内1点はベンガラと漆が塗られている。

埼玉県・清左右衛門遺跡第1号住居(第22図1～3)－埋没谷に構築された6.0×5.0mの方形の住居(註25)から、3点の石冠が出土している。

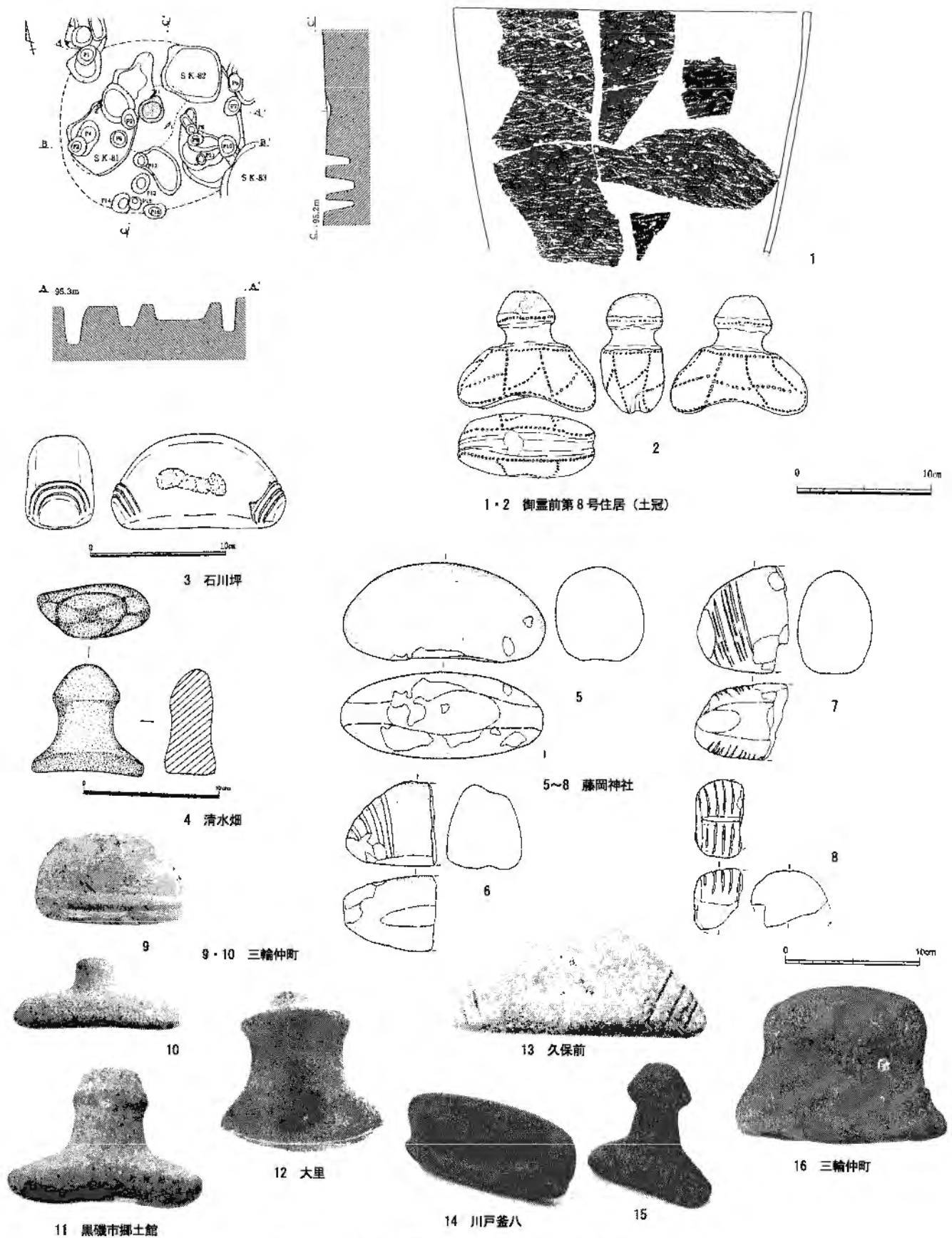
埼玉県・東北原遺跡第4号住居(第22図4・5)－4次調査の1辺9.4mの方形を呈する住居から出土。

イノシシ形土製品も出土しており、第3次調査の第2号住居からは、中空亀形土製品が出土している他、石冠形土製品も出土している(註26)。

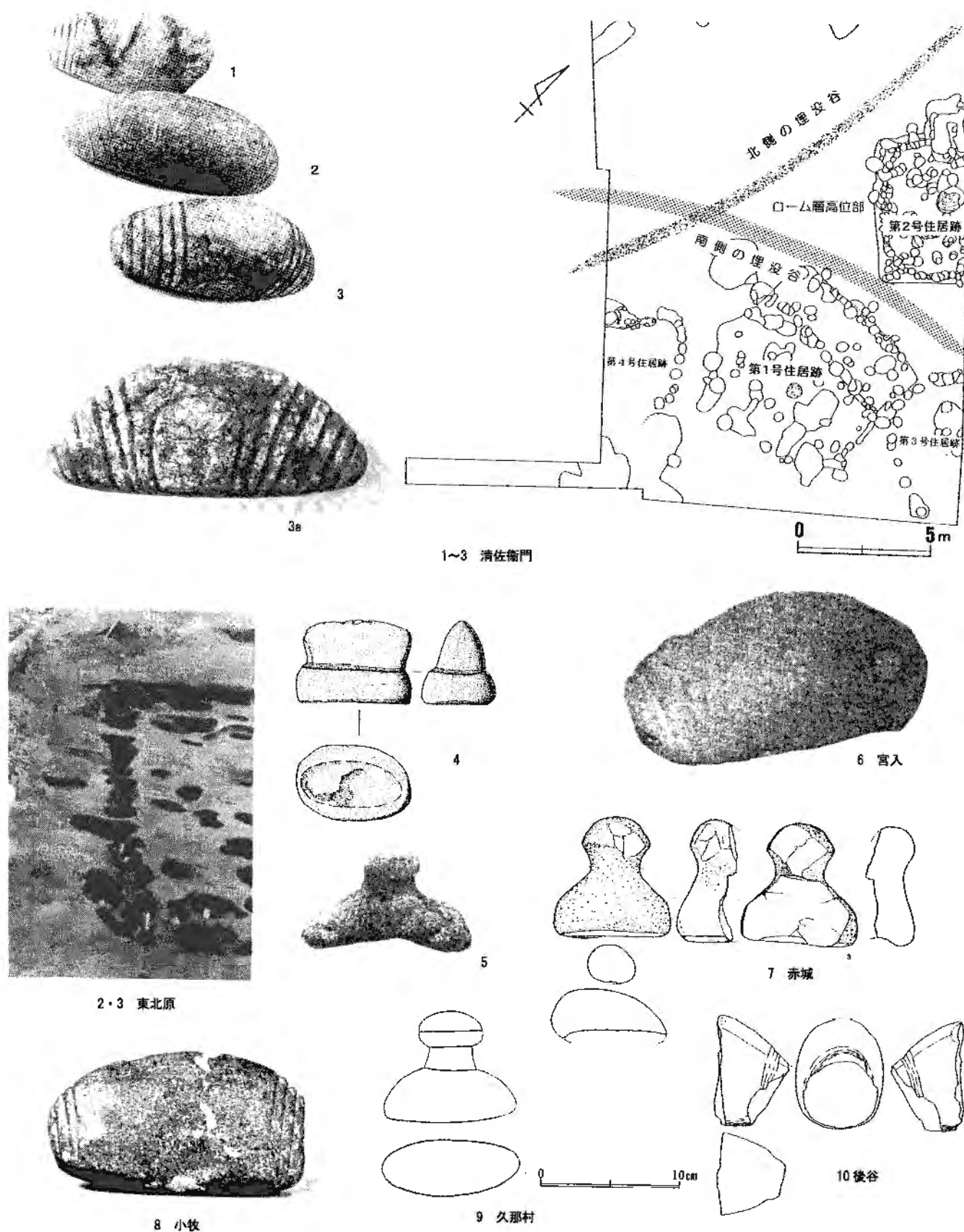
東京都・下布田遺跡(第23図1)－1968(昭和43)年に行われた、4回目の調査で検出された石棒を伴う特殊遺構の周辺から、球頭形石冠が1点出土している。



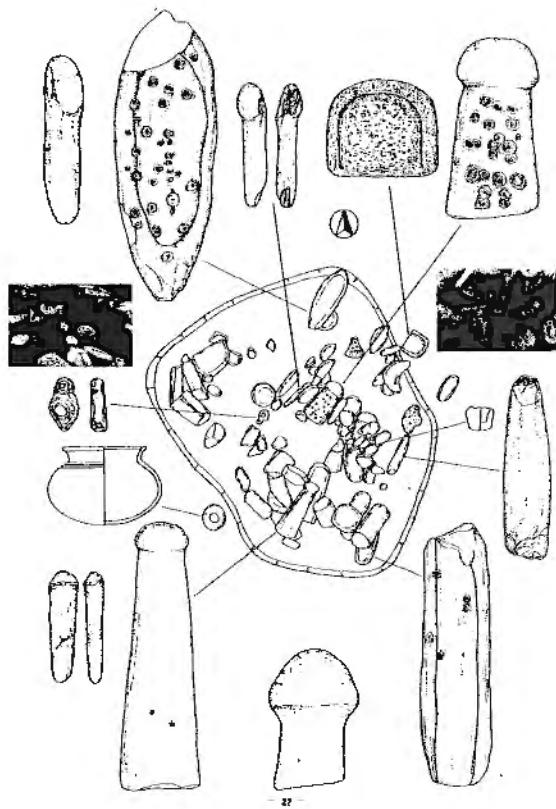
第20図 石冠関連遺物集成図－栃木県(1)八剣遺跡－



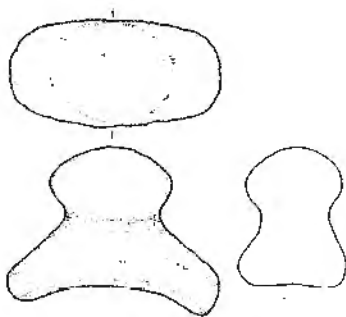
第 21 図 石冠関連遺物集成図一栃木県(2)一



第22図 石冠関連遺物集成図一埼玉県(1)一



4 桂台 (土冠)



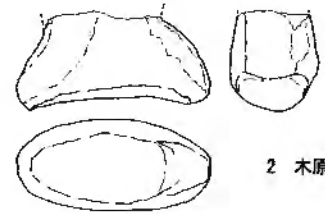
5 谷地



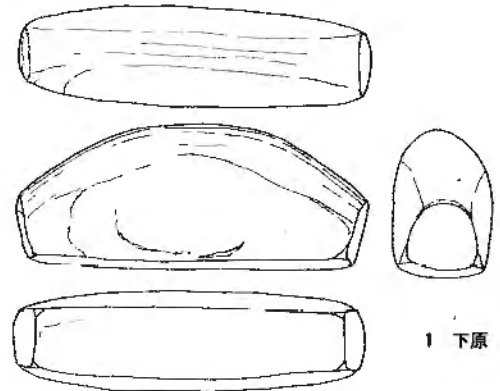
6 千網谷戸



1 下布田

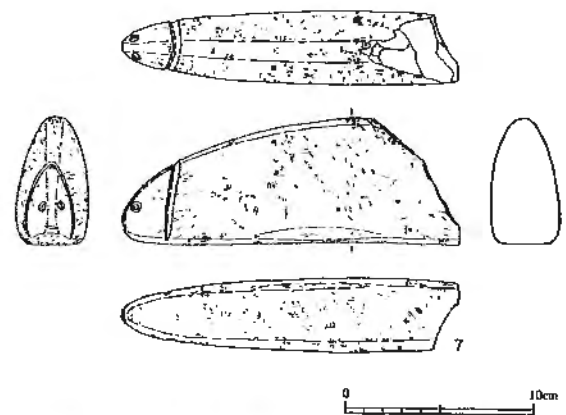


2 木原



1 下原

第 23 図 石冠関連遺物集成図—東京都・神奈川県・群馬県—



0 10cm

第 24 図 真脇遺跡出土魚形石製品

第2表 関東地方の石冠出土遺跡一覧表

県名	遺跡名	遺構No	時期	図No	分類					文	献
					I	II	III	IV	V		
千葉	内野第1	A-634 D-52	安行9a 安行2	第3図1 第5図1	○					田中英世・古谷源	2001 『内野第1遺跡発掘調査報告書』(財)千葉市文化財調査協会
	砥園原	43号住居	安行1	第15図1 第15図2 第15図3	○					杉村成規	1999 『砥園原貝塚』『上総国分寺台遺跡調査報告V』(財)京都市文化財センター
	曾谷C地点		加曾利B	第16図1	○					堀越正行	1978 『曾谷貝塚C地点発掘調査報告』市川市教育委員会
	船戸			第16図2					○	堀越正行	1979 『船戸貝塚と土偶・石冠形土製品』『史前』第11号
	古戸				○					堀越正行	1979 『船戸貝塚と土偶・石冠形土製品』『史前』第11号
茨城	小磯	29号住居	信谷	第17図16	○					沼田文夫	1966 『常磐自動車道関係埋蔵文化財調査報告書9-小磯遺跡』『茨城県教育財団発掘調査報告書第35集』茨城県教育財団
	北方	10号住居	安行1~2 安行1~2	第18図1 第18図1	○					高木雅男・小泉美明	1985 『北方貝塚(1981番地外7等)』北方貝塚遺跡調査会
	水戸市立上中妻小学校 十王堂	表掘		第19図4 第19図1	○					市毛美雄子	1998 『水戸市立上中妻小学校所蔵の磨製石冠』『奈良考古』第20号
				第19図2	○					日立市郷土博物館	1980 『日立市郷土博物館収蔵資料図録』第1集
	小野中道	表掘		第19図3	○					堀越信希	1984 『埴形形石冠・土冠についてー栃木県那須町清水畑遺跡出土の埴形形石冠をめぐってー』『栃木県考古学会誌』第9集 栃木県考古学会
	旧美和村	表掘		第19図5					○	堀谷要次	2009 『常陸大宮市小野中道遺跡出土の土冠』『奈良考古』第31号
	小野天神前	表掘		第19図6					○	佐藤次男	1983 『原始・古代の美和地方』『美和村史』美和村
	棚台 (板田)	表掘		第19図7 第19図8					○	堀谷要次	2008 『茨城県北部出土の土冠二題』『奈良考古』第30号
										大山裕也	1945 『茨城県那珂市島村竹久貝塚発掘調査報告』『史前学雑誌』第9巻第4号
	八剣	SI-11 A-か-9		第20図3 第20図4	○					堀本隆也・会田恵美子他	2001 『八剣遺跡』『栃木県埋蔵文化財調査報告書第254集』(財)とちぎ生誕学習文化財団
	御豊前 石川坪	SI-04 表掘	大洲C2	第21図1 第21図3					○	堀谷要次・木村友則他	2001 『御豊前遺跡II』『栃木県埋蔵文化財調査報告書第248集』(財)栃木県生涯学習文化財団
栃木	清水原	表掘		第21図4						堀越信希	1984 『埴形形石冠・土冠についてー栃木県那須町清水畑遺跡出土の埴形形石冠をめぐってー』『栃木県考古学会誌』第9集 栃木県考古学会
	藤岡神社	H-3-b-i B V-1-a-i V-1-a-i		第21図5 第21図6 第21図7 第21図8						手塚達也	1999 『藤岡神社遺跡』『栃木県埋蔵文化財調査報告書第197集』(財)栃木県文化振興事業団
	三輪村町	V-1-a-i		第21図9						栃木県教育委員会	『埴形の歴史と文化』『栃木県立なす風土記の丘資料館常設展示解説』
	三輪村町			第21図10						栃木県教育委員会	『埴形の歴史と文化』『栃木県立なす風土記の丘資料館常設展示解説』
	黒磯市郷土館			第21図11						栃木県教育委員会	『豊かな郷土のなかでーなすの縄文人ー』『栃木県立なす風土記の丘資料館第3回企画展』
	大里			第21図22						上野修一	1983 『新りの歴史』栃木県立博物館
	久保前			第21図23						栃木県教育委員会	『豊かな郷土のなかでーなすの縄文人ー』『栃木県立なす風土記の丘資料館第3回企画展』
	川戸釜八	SI-336	晩期前半	第21図14 第21図15	○					『川戸釜八遺跡』『栃木県埋蔵文化財センターだより やまかいどろ』	2006 『川戸釜八遺跡』『栃木県埋蔵文化財センターだより やまかいどろ』
	三輪村町			第21図16						栃木県教育委員会	『豊かな郷土のなかでーなすの縄文人ー』『栃木県立なす風土記の丘資料館第3回企画展』
埼玉	滑左衛門	1号住居	安行1	第22図1 第22図2 第22図3	○					松崎謙三	2004 『白岡町滑左衛門遺跡第3地点の調査』『第37回遺跡発掘調査報告会要旨』埼玉県考古学会
	東北原(2次調査)	2号住居	後期末~前期前	第22図4 第22図5					○	埼玉県埋蔵文化財センター	『県内でも希少な石冠』が出土ー白岡町滑左衛門遺跡の調査からー『埋文さいたま』No44
	東北原			第22図6						下村克彦	1972 『東北原遺跡』『第5回遺跡発掘調査報告会要旨』埼玉県考古学会
	宮合			第22図7					○	さいたま市立博物館	『古代の祭祀』埼玉県立博物館
	赤城			第22図8					○	さいたま市立博物館	『第18回企画展 さいたまの縄文時代ーまずは後期前からー』さいたま市立博物館
	小牧			第22図9					○	赤城遺跡	『埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第74集』(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
	久留村			第22図10					○	埼玉県立博物館	『古代の祭祀』埼玉県立博物館
	後谷			第22図11						斎藤房太郎	1937 『埼玉県後谷久留村出土の石冠』『史前学雑誌』第9号
	東町			第22図12						村田孝太郎	2007 『後谷遺跡第4次発掘調査報告書』福川市教育委員会
	大谷壺中学校跡									中島栄一	1983 『石冠・土冠』『縄文文化の研究9ー縄文人の精神文化ー』
東京	下布田			第23図1	○					川崎義雄	1980 『調布市下布田遺跡』
	神奈川	遺構外		第23図2 第23図3						浜田晋介他	『下原遺跡』『川崎市市民ミュージアム叢書4』
	桂台			第23図4					○	杉原佳介・戸沢武則	1963 『神奈川県杉原遺跡および桂台遺跡の研究』『考古学雑誌』2-1
	神奈川			第23図5						横浜歴史博物館	『特別展 縄文文化の発展ー花蔵台遺跡と後・晩期社会ー』
	西宮								○	飯沼清彦・寺田兼方	1964 『西宮貝塚調査報告』
群馬	千鶴谷戸	C・E・S地点		第23図8						富田秀雄	1972 『千鶴谷戸遺跡C・ES地点の調査』群馬県考古学会
	谷地	B-47-G-1		第23図9	○					寺内敏郎他	1988 『C77神奈川遺跡 C8谷地遺跡ー一級河川荒井川小規模河川改修に伴う埋蔵文化財調査報告書』群馬県教育委員会
	保美									中島栄一	1983 『石冠・土冠』『縄文文化の研究9ー縄文人の精神文化ー』
	矢瀬									三宅敦夫	2005 『上総北部遺跡群II(矢瀬遺跡)埋蔵文化財調査報告書』月夜野町教育委員会
	橋本			第24図						可児直典	2006 『第5期 石製品』『真鍮遺跡2006』鹿嶋町教育委員会

以上が関東地方の遺構から出土した石冠の概要であり、いずれも住居からの出土で、内野第1遺跡D-54のように土壌からの出土はみられない。このうち、祇園原貝塚43号住居や北方貝塚10号住居では焼土の堆積がみられ、石冠自体も熱を受けている。また、御霊前SI-08出土例や、赤城・八剣・下布田遺跡の遺構外出土の石冠も被熱し赤化している。このような現象は、同じ時期の石剣・石棒にも共通して認められるが、石剣・石棒が破損している例が多く、石冠は完形のものが多い。

4. A-634出土の石冠について

A-634出土の石冠は形態が細長い形態と両端の鋸歯状の刻線により魚形石製品として捉えた。中島栄一氏の分類では、石冠の第3類の中に含まれ、吉朝則富氏の石冠分類の「VI型—魚形石製品型石冠」に相当する。鯉節形石製品とも呼称され、III-B型石冠が長大化した形態であるが数は少ない。底面の挟りを持たず、使用痕がなく、両端に線刻を加えているものがある等の特徴があり、魚をモチーフとして発生したとされており(註27)、内野第1遺跡A-634出土石冠の特徴と一致する。

魚形石製品例は他に、茨城県根田貝塚(第19図8)(註28)や石川県真脇遺跡出土例(第24図1)(註29)があり、目の表現がみられる。A-634出土の石冠は、一概に魚を表現した石製品とは捉え切れないが、今後の資料の集成がさらに必要である。

5. D-52出土の石冠について

D-52出土の石冠は、大竹憲治氏により、海獣形石製品として捉えている石冠V類に含まれるとされている(註29)。石冠V類には、人面表現を有する福島県冷水遺跡や、今回の集成中の祇園原貝塚・曾谷貝塚・北方貝塚・清左衛門遺跡出土例が含まれている。その特徴は石冠の両端に、縦の刻線を施すことにより隆帯状の文様を持つことである。同じモチーフの石冠は、八剣遺跡・藤岡神社南遺跡・久保前遺跡等の栃木県の内陸部にも分布しているが、大竹氏が分類する石冠V類に含まれるのかは不明である。大竹氏の、石冠V類が海獣狩猟と密接に関係して分布するとする主張は、魅力的であるが慎重な対応が必要である。内野第1遺跡D-52出土石冠の、被熱し、砕けて出土した状態はJ-16出土の石剣と共通した出土状態を示しており、隣接して検出された第2号人骨との関係も問題となる。今後、内野第1遺跡出土の石棒・石剣の出土状態の比較検討も必要である。

おわりに

内野第1遺跡の基礎資料の提示も終わり、次からは居住形態の検討に移りたい。

今回は、資料・文献の集成に終始せざるを得ず、A-634の土製品を反転し、人面意匠の土製品として捉えることに妥当性があるのかは、今後、さらに資料の集成を行って再度検討を行いたい。

今回の発表には、堀越正行・大竹憲治・阿部芳郎・西野雅人・高田秀樹・塩崎幸夫・真脇遺跡縄文館・上田市立博物館・調布市郷土博物館・埼玉考古学会の各氏・各機関に資料の探索・収集等ご協力を頂いた。また、千葉市立加曽利貝塚博物館青沼道文・飛田正美氏には、発掘調査時から今回の発表に至るまで多くのご指導を賜った。記して感謝申しあげる。

(財団法人千葉市教育振興財団 埋蔵文化財調査センター)

註

1. 田中英世 2004a 「千葉市内野第1遺跡出土の縄文時代資料補遺(1)」『埋蔵文化財調査センター年報』16 千葉市教育振興財団埋蔵文化財調査センター
2004b 「千葉市内出土の人面付土版」『貝塚博物館紀要』第31号 千葉市立加曽利貝塚博物館
2005a 「千葉市内野第1遺跡出土の縄文時代資料補遺(2)」『埋蔵文化財調査センター年報』17 千葉市教育振興財団埋蔵文化財調査センター
2005b 「千葉市内野第1遺跡出土の石棒・石剣」『貝塚博物館紀要』第32号 千葉市立加曽利貝塚博物館
2006a 「千葉市内野第1遺跡出土の縄文時代資料補遺(3)ー埋設土器と縄文時代後半の土器群ー」『埋蔵文化財調査センター年報』18 千葉市教育振興財団埋蔵文化財調査センター
2006b 「千葉市内野第1遺跡出土の縄文時代晩期の土器群」『貝塚博物館紀要』第33号 千葉市立加曽利貝塚博物館
2007 「井戸遺跡と内野第1遺跡」『貝塚博物館紀要』第34号 千葉市立加曽利貝塚博物館
2. 北国新聞 1990 「真脇遺跡から魚形石製品」『文化財発掘出土情報2003・1』
可児直典 2006 「第5節 石製品」『真脇遺跡2006』能都町教育委員会
3. 大竹憲治 2007 「冷水遺跡出土海獣形石製品に酷似する石冠考ー埼玉県静左衛門遺跡・宮合貝塚の石冠をめぐるー」『いわき地方史研究』第44号 いわき地方史研究会
2008 「三たび海獣形石製品に酷似する石冠考ー特に曾谷貝塚E地点・祇園原貝塚の資料を中心にー」『福島考古』第49号 福島県考古学会
2009 「四たび海獣形石製品に酷似する石冠考ー特に岐阜県桜洞神田遺跡の事例を中心にー」『史峰』第27号 新進考古学同人会
4. 前稿ではA-634を安行2式期、A-635を晩期前半としていた。第2図11の安行3a式土器がA-634一括出土で、出土地点の特定ができなかったためである。今回の検討で、A-634北西側住居内から第2図10、住居外から第2図12・13の加曽利B式土器が出土していることがわかり、A-634が安行2式期と加曽利B式期の重複の可能性がでてきた。
5. 時期は報告書の一覧表に従ったが、炉から第9図3の異形台付土器が出土しており、安行2式期の可能性がある。な、覆土内からは、第9図5・6の後藤系列の完形に近い土偶が出土しており、第9図1・2に伴うと思われる。
6. 江坂1964では41例、江坂1979では12種類・55例、設楽1996では174例、小野2003では87遺跡・173例・19種類が確認されたとされている。
江坂輝弥 1960 「動物形土製品」『土偶』校倉書店
1966 「動物形土製品」・「縄文人の絵画」『古代史発掘3 土偶芸術と信仰』講談社
設楽博己 1996 「つきあいのはじまり」『動物とのつきあいー食用から愛玩具までー』国立歴史民俗博物館
小野美代子 2003 「縄文の絵画と塑像」『考古学ジャーナル』No497 ニューサイエンス社
7. 佐藤智雄 1998 「北海道の動植物を意匠する製品」『東北民俗学研究』第6号
福田友之 1998 「青森県域出土の先史動・植物意匠遺物」『東北民俗学研究』第6号
成田滋彦 1998 「縄文後期の動・植物意匠文ー青森県を中心にー」『東北民俗学研究』第6号
高橋学 1998 「秋田県における動植物を意匠文とする土器・土製品ー」『東北民俗学研究』第6号
日下和寿 1998 「岩手県内の動植物形土製品集成ー」『東北民俗学研究』第6号
阿部博志 1998 「宮城県出土の縄文時代の動物形土製品ー」『東北民俗学研究』第6号

- 秦昭繁 1998「山形県内出土の動植物形土製品一」『東北民俗学研究』第6号
- 山口普 1998「福島県内出土の動植物意匠をもつ縄文時代遺物」『東北民俗学研究』第6号
8. 斎野裕彦 1999「解説『動物デザイン考古学—縄文人が作った小さな動物』 地底の森ミュージアム
9. 小倉和重 2007「資料紹介、佐倉市井野長割遺跡採集のイノシシ形土製品—動物形土製品研究の展望を兼ねて—」『研究紀要』印旛郡市文化財センター
10. 小杉康 2004「千葉県江原台遺跡および岩手県雨滝遺跡出土の亀形土製品」『館報』2 明治大学考古学博物館
11. 金子裕之 1982「縄文時代Ⅲ(後期・晩期)」『日本の美術』至文堂
- 梅原猛・渡辺誠 1989「縄文の神秘」『人間の美術1』学習研究社
12. 土肥孝 1994「45・46・47・48 動物形土製品 解説」『日本美術全通Ⅰ—原始の造形—』講談社
- 土肥孝 2006「さいたま市東北原遺跡出土の動物形土製品について—動物形土製品についての視点」『埼玉の考古学Ⅱ』
13. 小杉康 2003「ビビの物語—狩猟儀礼—」『縄文人のマツリと暮らし—先史日本を復元する』岩波書店
- 設楽博己 2006「縄文の亀」『亀の古代学』東方出版
14. 註5・13.このような粗製の亀形土製品は茨城県を中心に出土しており、従来の亀形土製品とは区別して考えるべきとの指摘がある
- 阿久津久・小林實 1980「茨城県内出土の亀形土製品」『考古学雑誌』66-3 茨城県恩名新立遺跡・鴻巣徳源院遺跡出土の亀形土製品を紹介。
- 関口満 1997「神立遺跡出土亀形土製品について」『土浦市立博物館紀要』第8号
15. 金子昭彦 2001「遮光器土偶と縄文社会」『ものが語る歴史4』同成社
16. 註9と註15の集成図による。
17. 類似するモチーフとしては、茨城県御所内遺跡出土の土偶、埼玉県三ノ耕地遺跡出土の中空土偶、青森県十腰内遺跡の人面付容器形土偶、土井Ⅰ号遺跡出土の岩偶にみられる。十腰内遺跡の人面付容器形土偶は、三叉文を組み込んだ磨消縄文で模様を構成している。
- 瓦吹堅 1992「茨城県東海村御所内遺跡出土の土偶」『史峰』第17号 新進考古学同人会
- 弓明義 1999「三ノ耕地」『発掘された日本列島'99 新発見考古速報』朝日新聞社
- 土肥孝 2006「さいたま市東北原遺跡出土の動物形土製品について」『埼玉の考古学Ⅱ』
- 稲野祐介 1998「亀ヶ岡文化における岩偶」『列島の考古学 渡辺誠先生還暦記念論文集』
18. 鷹野光行 1977「関東地方の土版の分類について」『古代文化』第29巻10号
- 稲野彰子 1982「関東地方における土版・岩版の文様」『史学』第52巻2号
19. 中島栄一 1983「石冠・土冠」『縄文文化の研究』9 雄山閣
20. 吉朝則富 1987「石冠集成」『飛騨の考古学遺物集成Ⅱ』高山市教育委員会
- 吉田淳 1998「祭祀具Ⅰ」『石川県考古資料調査・集成事業報告書』石川県考古学会
21. 岡本孝之 1999「遺物研究 石冠・石鋸・鏝節形石器」『縄文時代』第10号および註20の滝沢論考
22. 滝沢規則 2001「新潟県の石冠」『新潟県考古学談話会会報』第23号
23. 堀越正行 1979「船戸貝塚と土偶・石冠形土製品」『史館』第11号
24. 後藤信裕 1984「球頭形石冠・土冠について—栃木県那須町清水畑遺跡出土の球頭形石冠をめぐる—」『栃木県考古学会誌』第8号
25. 市毛美津子 1998「水戸市立上妻小学校所蔵の磨製石器」『姿良岐考古』第20号 姿良岐考古同人会

横倉要次 2008「茨城県北部出土の土冠二題」『姿良岐考古』第30号 姿良岐考古同人会

横倉要次 2009「常陸大宮市小野中道出土の石冠」『姿良岐考古』第31号 姿良岐考古同人会

特に横倉氏は未発表資料の紹介だけではなく、過去の茨城県内の資料の掘り起こしも積極的に行っている。

26. 計測値は下記文献の全体図より計測した。

松崎慶喜 2004「白岡町清左衛門遺跡第3地点の調査」『第37回遺跡発掘調査報告会要旨』埼玉県考古学会

埼玉県埋蔵文化財センター 2004「県内でも希少な「石冠」が出土ー白岡町清左衛門遺跡の調査からー」『埋文さいたま』No44

27. 下村克彦 1972「東北原遺跡」『第5回遺跡発掘調査報告会要旨』埼玉県考古学会

さいたま市立博物館 2006『第18回企画展 さいたまの縄文時代ーまずは後晩期からー』

住居番号は第6次調査で変更されており、下記文献に従った。

下村克彦 1995「東北原遺跡ー第10次調査ー」『大宮市遺跡調査会報告第49集』大宮市遺跡調査会

中空亀形土製品の報告は下記になされており、石冠形土製品については、埼玉県立博物館の図録に掲載されているが、出土地等は不明である。

山形洋一他 1972「東北原遺跡発掘調査報告ー第6次調査ー」『大宮市文化財調査報告第19集』大宮市教育委員会
埼玉県立博物館『古代の祭祀』

28. 吉朝則富 1987「石冠集成」『飛騨の考古学遺物集成Ⅱ』高山市教育委員会

2004「飛騨における石冠研究の現状と課題」『かにかくにー八賀晋先生古希記念論文集ー』三星出版

29. 大山柏・池上啓介・大給尹 1945「茨城県稲敷郡舟島村竹来根田貝塚群調査報告」『史前学雑誌』第9巻第4号

30. 可児直典 2006「第5節 石製品」『真脇遺跡2006』能都町教育委員会

31. 大竹憲治 2009「五たび海獣形石製品に酷似する石冠考ー千葉市内野第1遺跡出土の石冠Ⅴ類をめぐってー」『いわき地方史研究』第45号 いわき地方史研究会

追記

なお、前回の注口土器に磨製石斧を埋納した例に河原塚貝塚出土例があることを、須賀博子氏よりご教示頂いた。
土器は純貝層に直立し、内部には灰様の土が充満。周囲には遺構は認められない。

松戸市誌編集委員会 1959『松戸河原塚古墳』

また、土壌内出土の注口土器に大田区千鳥久保貝塚出土例がある。土壌中央に灰と焼土が検出され、その直上に底部を欠損した注口土器が出土した。この土器は山内清男編『日本先史土器図譜』に掲載されている。

宮坂公次 1929「千鳥久保貝塚の竪穴」『史前学雑誌』第1巻第1号